

文部科学省 学校支援地域本部事業

地域の力を学校に！

～学校支援センターの充実に向けて～



平成23年3月
群馬県教育委員会

はじめに

群馬県教育委員会では、平成16年度から、地域の教育力を有効に活用した学校の教育活動の充実をめざして、地域の方々が学校の諸活動に協力するための拠点となる「学校支援センター」を設置し、運営推進に努めてきました。現在では、県内のすべての市町村立小・中・特別支援学校に学校支援センターが設置され、地域の方々の協力を得ながら学校や地域の実態に応じた教育活動が展開されています。

新学習指導要領においても、家庭や地域社会との連携について「学校がその目的を達成するため、地域や学校の実態等に応じ、家庭や地域の人々の協力を得るなど家庭や地域社会との連携を深めること」と明記され、今後、学校、家庭、地域社会がそれぞれ本来の教育機能を発揮し、全体としてバランスのとれた教育が行われることが、一層重視されていくものと考えられます。

文部科学省は、平成20年度から、地域全体で学校教育を支援する体制づくりを推進することを目的に「学校支援地域本部事業」を開始し、県内では、学校支援センターの充実・発展の目的で、前橋市、高崎市、中之条町、沼田市が推進地域として地域と学校が連携して取り組む効果的な学校支援の在り方について研究を進めて参りました。

本資料は、推進地域の各学校が取り組んできた「地域の教育力を活用した教育活動を推進するための工夫」についての取組を、地域と学校の連携がさらに深まるよう、学校・コーディネーター・ボランティアの三者の立場からまとめたものです。各学校の学校支援センターの取組を一層充実させる上での参考としてご活用いただければと思います。

末筆になりますが、両事業の運営に携わっていただいている方々の日頃からの御尽力に対しまして心より敬意を表しますとともに、本事例集の作成にあたり御協力をいただきました、市町教育委員会をはじめ先生方、並びにコーディネーター、ボランティアの方々の皆様に心より感謝申し上げます。

今後も、学校支援センターを拠点とした地域の教育力を有効に活用した学校教育の充実、さらに学校と地域のより一層の連携の推進に向け、御協力をお願い申し上げます。

平成23年3月

群馬県教育委員会

義務教育課長 堀澤 勝

生涯学習課長 大矢 一

目 次

1 学校支援地域本部事業について

2 各推進地域の取組

- (1) 前橋市教育委員会の取組
- (2) 高崎市教育委員会の取組
- (3) 中之条町教育委員会の取組
- (4) 沼田市教育委員会の取組

3 実践事例

(1) 授業にかかわる学習支援

- ①地域を学び 地域で学び 地域と学ぶ「林業体験」
- ②戦争体験講話（社会）
- ③えんぴつけずり教室（3年 図画工作）
- ④ミシン指導（5年 家庭科）
- ⑤こんにゃく作り（5年 総合的な学習の時間）
- ⑥健康教室（3～6年 総合的な学習の時間）
- ⑦職場体験学習（2年 総合的な学習の時間）

- ⑧シラネアオイの植栽（総合的な学習の時間）
- ⑨点字学習（4年 国語）

前橋市立春日中学校
高崎市立吉井西小学校
中之条町立中之条小学校
中之条町立沢田小学校
中之条町立名久田小学校
中之条町立六合小学校
中之条町立中之条中学校
中之条町立西中学校
中之条町立六合中学校
沼田市立沼田東小学校

(2) 授業以外の学習支援

- ①地域の支援を受けて無農薬野菜をつくる「食農学習」
- ②読み聞かせボランティア
- ③花苗の鉢上げ作業
- ④夏休みわくわく体験活動「牛乳パックでケーキ作り」

前橋市立元総社中学校
高崎市立吉井西小学校
中之条町立西中学校
沼田市立沼田東小学校

(3) 環境整備や地域交流支援

- ①学校と地域が一体となった「あいさつ運動」
- ②「学校・地域ふれあい花壇」の造成と花づくり活動
- ③児童とふれあう「みどりボランティア」
- ④「掲示板の設置」作業
- ⑤校庭の固定施設「補修及びペンキ塗り」

前橋市立南橋中学校
前橋市立鎌倉中学校
高崎市立吉井西小学校
中之条町立伊参小学校
沼田市立沼田東小学校

4 学校支援センター運営推進状況調査結果

5 学校支援センターの更なる充実に向けて

1 学校支援地域本部事業について

学校支援地域本部は、学校の教育活動を支援するため、地域住民の学校支援ボランティアなどへの参加をコーディネートするもので、いわば“地域につくられた学校の応援団”と言えます。

学校と地域の連携による学校の教育活動の支援の仕組みをつくり、社会総がかりの国民運動として展開されることを目指し、平成20年度に文部科学省が始めたものです。

○ 学校支援地域本部事業のねらい

社会がますます複雑多様化し、子どもを取り巻く環境も大きく変化する中で、学校が様々な課題を抱えているとともに、家庭や地域の教育力が低下し、学校に過剰な役割が求められるようになっていきます。このような状況のなかで、これからの教育は、学校だけが役割と責任を負うのではなく、これまで以上に学校、家庭、地域の連携協力のもとに進めていくことが不可欠となっています。

このため、平成18年におよそ60年ぶりに改正された教育基本法に学校、家庭、地域の連携協力に関する規定が新たに盛り込まれました。

○教育基本法第13条（学校、家庭及び地域住民等の相互の連携協力）

学校、家庭及び地域住民その他の関係者は、教育におけるそれぞれの役割と責任を自覚するとともに、相互の連携及び協力に努めるものとする。

学校支援地域本部は、これを具体化する方策の柱であり、学校、家庭、地域が一体となって地域ぐるみで子どもを育てる体制を整えることを大きな目的としています。

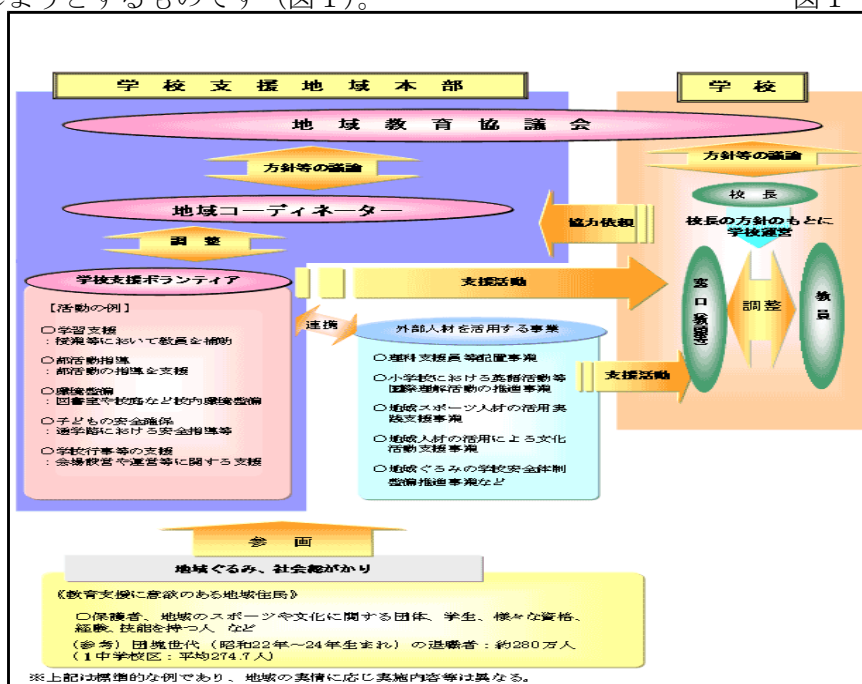
具体的には、それぞれの学校の状況に応じて地域ぐるみで学校の教育活動の支援が行われることで、

- (1) 教員や地域の大人が子どもと向き合う時間が増えるなど、学校や地域の教育活動のさらなる充実が図られる。
- (2) 地域住民が自らの学習成果を生かす場が広がる。
- (3) 地域の教育力が向上する。

ことが期待されます。

学校支援地域本部は、それぞれの地域の教育機能を、地域住民の力をフルに活用しつつ、学校を中心に再構築しようとするものです（図1）。

図1



○ 群馬県における取組

県教育委員会では、地域の教育力を取り入れ教育活動の充実を図るため、平成16年度から各市町村教育委員会と協同し「ぐんま少人数クラスプロジェクト」の推進を図ってきました。このプロジェクトの中で、地域の方々に学校の教育活動へ協力してもらうため「スクールサポートボランティアバンク」への地域人材の積極的な登録、空き教室等を活用し学校と地域とが連携して教育を進める拠点「学校支援センター」の設置(図2)、学校と地域をつなぐ調整役としての「連携推進担当」の校務分掌への位置づけ等、学校と地域の相互が能動的に連携・協力して学校支援センターを運営できる体制づくりにつとめてきました。

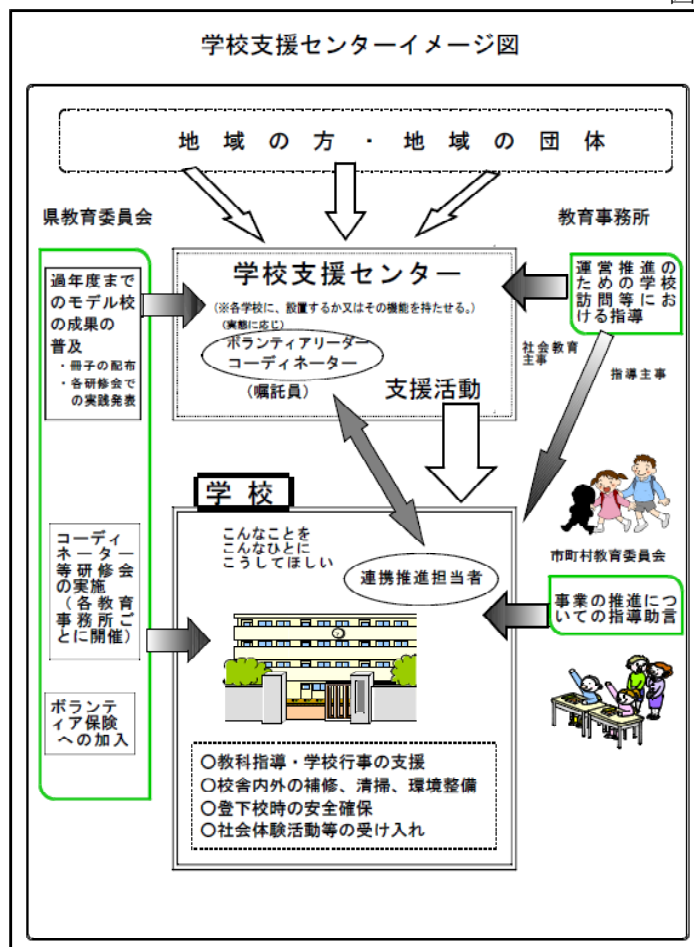
また、平成17年度から、学校において地域の教育力を一層有効に活用するために、「学校支援センター運営推進」事業を実施し、地域コミュニティにおけるボランティア活動の基点として「学校支援センター」を設置して取り組むモデル校(モデル地区)の指定と、その支援のための嘱託員の配置、コーディネーターの養成及びボランティア育成のための研修を義務教育課・生涯学習課が連携して実施してきました。19年度末には県内のすべての市町村立小・中・特別支援学校に学校支援センター(機能のみも含め)が設置されました。

平成20年度から平成22年度の3カ年は、学校と地域の連携に関する研究推進校として下記の4市町(7小学校7中学校)において、学校支援センターの充実・発展の目的で学校支援地域本部事業(国委託事業)を実施してきました。

県内の推進地域は、次の4地域です。

- ・前橋市(春日中、元総社中、南橋中、鎌倉中)
- ・高崎市(吉井西小)
- ・中之条町(中之条小、沢田小、伊参小、名久田小、六合小、中之条中、西中、六合中)
- ・沼田市(沼田東小)

図2



2 各推進地域の取組



(1) 前橋市教育委員会の取組

(1) 前橋市学校支援地域本部実行委員会の取組

前橋市教育委員会では、市内4つの中学校に学校支援地域本部を設置した。そして学校と地域が連携し、より充実した事業の推進のため、各地域本部を統括する市の実行委員会を組織した。実行委員会は、学校と地域との結びつきをより確かなものにするため、地域の有識者を委員長とし、地域本部を設置した4校の校長、PTA会長、そして各学校区の公民館長を委員とした。また事業の要となる各学校の地域コーディネーターはオブザーバーとした。実行委員会では、各地域本部の活動報告等の情報交換を行うとともに、各学校の課題を明確にし、課題に対する改善策について協議を行った。そしてそれぞれの地域本部が連携して充実した事業の推進ができるよう努めた。具体的な内容として、主に以下の2点がある。

①学校支援地域本部実行委員会の充実

本事業の意義や地域本部の基本的な在り方などを確認するため、初年度にはNPO法人のスクール・アドバンス・ネットワーク理事長の生重幸恵氏を招き、講演会と情報交換会の研修を行った。さらに、事業推進の理解を深めるため、年2回の研修会を開催した。また、地域コーディネーターの資質向上を図るため地域コーディネーター研修会を開催した。研修会では、講師による講演会をもったほか、地域コーディネーターの実際の仕事の方法を相互に学ぶとともに、事業推進上の問題点や工夫点などを持ち寄って情報交換を行った。

②広報、普及活動の展開

市教育委員会の実施する会議等において、本事業の取組の紹介を行った。また、事業の啓発資料となるリーフレットを作成した。さらに市内全教職員に配布する「学校教育広報」では、本事業の取組の紹介を行うとともに市内の学校の「学校支援センター」の充実を呼びかけた。

(2) 各学校支援地域本部の主な取組

①春日中学校：「林業体験活動・農業体験活動」「食育学習支援」「各教科の学習支援」等
(地域コーディネーターは、元PTA本部役員の女性1名)

②元総社中学校：「食農体験学習」「キャリア教育」「あいさつ運動」「地域清掃活動」等
(地域コーディネーターは、地域ボランティアリーダーの女性1名)

③南橋中学校：「あいさつ運動」「花いっぱい運動」「公民館との連携事業」「各教科の学習支援」「エコキャップ運動」「地域パソコン教室」「橘山整備活動」等
(地域コーディネーターは、元校長の男性1名、元教諭の女性1名)

④鎌倉中学校：「花いっぱい運動」「あいさつ運動」「地域清掃活動」「職場体験学習」等
(地域コーディネーターは、元校長の男性1名、元教諭の女性1名)

(3) 学校支援地域本部事業の成果

①地域コーディネーターの働きによるボランティア活動の推進・充実

地域コーディネーターが学校と地域を繋ぎボランティアの連絡・調整を行うことにより、ボランティアバンクが更に充実し、学校の教育活動におけるボランティアの導入が推進された。そして、より充実した教育活動が展開される中、学校と地域の連携が深まった。

②生徒の地域へ向けたボランティア活動の充実

地域のボランティアが来校する機会が増える中、地域でのボランティア活動に生徒が参加するようになった。例えば、全校生徒で「地域清掃活動」に取り組んだり、生徒が先生役になって地域住民にパソコン操作を教える「地域パソコン教室」を実施したりした。

③公民館との連携による地域のサークル活動との相互交流

公民館と連携し、専門的な知識や技能をもったゲストティーチャーによる様々な「学習支援」が行われた。その中で、授業の講師として来校した絵画サークルの方々の作品展を中学校の展示ホールで行う一方、授業や部活動での生徒の絵画作品を公民館で展示するといった取組の報告があり、公民館を通し地域との相互交流を深めることができた。

(2) 高崎市教育委員会の取組

高崎市では、学校、家庭、地域がそれぞれの役割を果たしつつ相互に連携、協力し、「地域とともに歩む学校づくり」を推進している。

全小中学校に学校支援センターが設置され、連携担当教員または地域の方がコーディネーターとなり、それぞれの地域の実態に応じた推進が図られている。

(1) 具体的な方策

高崎市では、平成 21 年 6 月 1 日の合併により、旧吉井町が平成 20 年度から県委託事業として行っていた学校支援地域本部事業を継承し、地域の教育力を活用して学校の教育活動を充実するため取り組んでいる。

①学校支援地域本部事業実行委員会及び地域教育協議会の設置

吉井西小学校で取り組んできた読み聞かせやお帰り引率の活動を活性化するため、学校に設置されていた学校支援センターを充実・発展させるものとして学校支援地域本部事業実行委員会を設置し、事業の推進にあたっている。

また学校長、PTA会長、校区代表区長、コーディネーター代表を構成員として地域教育協議会を設置し、活動を推進していく上での課題や解決策について話し合っている。

②吉井西小学校学校支援地域本部の主な取組

英語活動、書写、社会（戦争体験講話等）、算数、水泳監視、マラソン試走監視等の授業支援や、読み聞かせボランティア、図書ボランティアなどの授業以外の学習支援、学校敷地内の剪定・除草、お帰り引率などの環境整備や地域交流支援などに多くの地域ボランティアが参加している。

地域コーディネーターは県主催の研修に参加し、資質の向上に努めている。

(2) 成果と課題

吉井西小学校の校区はもともと吉井小学校長根分校、同校片山分校があり地域の教育力の高い土地柄である。

そうした要素がある中で、支援本部の核となるコーディネーターの熱意と創意工夫で、将来へ続く支援システムが出来上がった。各フォーラムでの発表や遠方からの視察受入れにより吉井西小学校支援地域本部の取組事例を伝えてきたが、学校、地域、そして二者をつなぐコーディネーターの三者が活発に動ける「計画・実行・評価」のあり方をマニュアル化し残していくことが必要かと思われる。

(3) 中之条町教育委員会の取組

中之条町では、平成20年度より3年間の委託事業として、2つの学校支援地域本部を設置した。

- ・2名の地域コーディネーターを配置し、実行委員会及び各地域本部ごとに地域教育協議会を開催し、学校支援地域本部事業の取組を推進している。
- ・学校支援地域本部事業を分かりやすく「学校お助け隊」という名称にして、学校及び地域への浸透を図っている。
- ・各学校の学校支援センターの取組と一体化して事業を実施している。

～中之条町教育委員会の基本方針～

「たくましく生きる心を育む」を目標に掲げ、4本の柱の1つに「家庭・学校・地域教育の連携・協力」を掲げ、家庭や地域社会がそれぞれの教育的機能を発揮し、学校と一体となって子どもたちの教育にかかわれるよう、三者の連携をより一層推進するとともに、家庭や地域社会の教育活動等に対する支援を行い教育行政を推進する。

(1) 中之条町学校支援実行委員会の取組

① 実行委員会の開催

町全体の組織として位置付け、1学期に1回開催し、全体の方向性を協議し、2つの学校支援地域本部と連携を図るため、活動報告及び情報交換を行った。

② 広報普及活動

各種研修会等で当事業の取組を紹介した。

当事業の啓発のため各地域本部と連携し、学校お助け隊だよりを町内全戸（年3回）、各学校には教職員分を配布。ボランティアの募集、感想、お礼などを掲載した。

(2) 学校支援地域本部の取組

2つの地域本部を設置し、1学期に1回地域協議会を開催し、PTA会長、区長会長（地元住民の代表者）と取組事例の報告や情報交換をすることで共通理解を図り、当事業への協力をお願いしている。

各地域本部ごとに配置した地域コーディネーターが、各校の活動に参加してボランティアの活用状況を見ながら、教員とボランティアの要望等を調整している。

主な取組は以下のとおり。

◇ 東部学校支援地域本部（1小学校・3中学校）

- ① 中之条小学校 えんぴつ削り教室（3年）、ミシン指導（5年）
- ② 伊参小学校 掲示板の設置作業、そばの栽培と調理、中之条高校との交流学习（3～6年）
- ③ 名久田小学校 こんにゃく作り（5年）、読み聞かせ、じゃがいも・サツマイモ栽培（1・2年）
- ④ 中之条中学校 職場体験学習（2年）、歴史学習（1年）、郷土料理（2年）、ゆかたの着付け（3年）

◇ 西部学校支援地域本部（2小学校・2中学校）

- ① 沢田小学校 ミシン指導（5年）、和太鼓体験学習（5年）
- ② 六合小学校 福祉講座（3～6年）、交通安全教室（全校）
- ③ 西中学校 職場体験学習（2年）、サルビアの鉢上げ作業（1～3年）
- ④ 六合中学校 シラネアオイの植栽（2年）、職場体験学習（2年）、苗堀（1年）、書写

(3) 学校支援地域本部事業の成果

◇ 町内全校で、学校支援ボランティアを活用した授業のよさが教員に浸透できた。

◇ 学校ボランティアの活用事例が増え、要望も多く寄せられるようになってきた。

◇ 学校ボランティア活動が町民に認知されるようになり、ボランティアの依頼が容易に可能になった。

・ 本事業の成果を他校に広げるための方策

◇ 実行委員会や地域協議会で情報交換を行い、実践事例を町内の全学校に広げている。

◇ コーディネーターの学校での意見交換で、他校の活用例を話したり、ボランティア紹介を行ったりしている。

(4)沼田市教育委員会の取組

(1) 実施方針及び学校支援センターとの関連

沼田市では、全小中学校に学校支援センターとしての機能があり、学校の教育目標達成のため、また、地域の教育力を高めるため、学校と地域との連携の充実を目指している。

これまでの市内各校の学校支援センターは、学社連携担当教員がコーディネーターとなり、地域との連携を推進している場合や地域の方がコーディネーターとなり、学校と地域にかかわり、つなぐ役割を果たしている場合など、それぞれの地域の実態に応じた体制により、その推進が図られている。

そこで、現在の学校支援センターの役割を、子どもの学力向上や社会性の育成、教員の支援、地域振興等の視点から改めて見直すとともに、コーディネーターの役割を重視し、より組織的、主体的に機能できる体制づくりを行うことを通して、学校と地域との連携を一層深めるため、本事業を実施している。

(2) 具体的な方策

沼田市では、沼田東小学校に学校支援地域本部を設置し、連携内容の充実や、ボランティアの拡大、コーディネーターの養成など、学校と地域連携を進める上での課題の解決を、コーディネーターの役割を重視しながら進めるとともに、その成果について市内各校へ積極的に広報し、各地域への波及を目指している。

○沼田東小学校支援地域本部の対象地域を、沼田中学校、沼田北小学校の学区を含めた、地域とし、3校の連携を視野に入れて事業を推進している。

○沼田東小学校支援地域本部の実施状況や成果について、学校訪問を通して市内各校へ知らせるとともに、指導・助言の資料としている。

(3) 成果

沼田東小学校支援地域本部では、コーディネーターが、学校の要望に応じて積極的に地域をリサーチし、ボランティアとして、よりふさわしい方を授業支援に依頼するなど、教育活動の質的な充実につながってきている。また、コーディネーターが発行する「学ボラだより」を通じて、積極的に活動内容を地域に紹介したことにより、「夏休みわくわく活動」でのボランティア希望が増えるなど、企業を含め、地域の方々の学校を支援する意識が高まってきている。

○ボランティアの拡充とともに、支援内容の質的な向上が図られている。また、コーディネーターを中心に、学校支援がより組織的、主体的に行われている。

○「子どものために」という共通の視点で、学校と地域が理解し合える関係が築かれてきている。また、連携内容の評価及び改善についても、コーディネーターを中心に主体的に行われている。

3 実践事例

(1) 授業にかかわる学習支援

(2) 授業以外の学習支援

(3) 環境整備や地域交流支援



【授業にかかわる学習支援①】

地域を学び 地域で学び 地域と学ぶ 「林業体験」

前橋市立春日中学校

1 実践の概要

本校の教育目標を達成するための具体目標「か：考え、深める学習 す：素直な心、やさしい心が：がんばる体力・気力」を基に、教育課程を編成し日々の教育活動を実践している。本事業指定以前から指導の重点として取り組んできた「学力向上小中連携モデル地区」や「食に関する指導モデル校」の実践を精選するとともに、平成20年度から本事業推進との関わりを検討し、職場体験学習内容の改訂を行った。また、生徒指導面においては、平成17年度から継続している「学びの基盤を支える学習環境整備」を継続的に実践・充実することにより、中一ギャップの軽減と自己肯定感・自己存在感の育成との関連を図っている。

教育課程編成に当たり、大きな変更点の一つに標記の「林業体験」があげられる。従来からキャリア教育に位置付けられている職場体験学習の学習内容(特に体験職種)を変更することで、そのねらいをより確実に達成するとともに、他の教科や領域との関連を図りながら、学習意欲や体験の充実感を高められると考えた。

第三次産業の事業所を中心に実施してきた職場体験学習を、第一次産業での体験に変更した理由は、地域の自然環境と生徒の生活実態が遊離していること、環境教育や食農教育が継続されていること、体験事業所数や時間的な制約があることなどがあげられる。これらの状況から教育課程の内容を整理・統合し、学習内容の系統性・関連性を明確にし、体験内容の充実を図る単元として位置付けた。

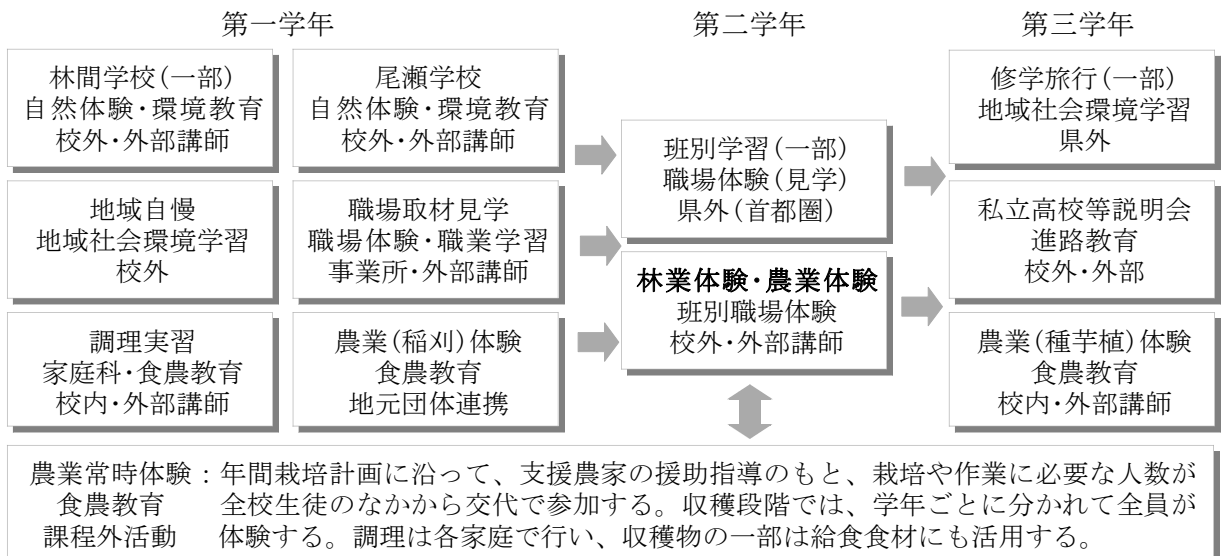
平成20年度を準備期間とし、地域の教育力を発掘することに重点を置き、学校支援コーディネーターの役割を明確にししながら、新たな試みを実施した。また、今後の支援活動に生かすために、具体的な業務の記録を残すようにした。地域人材を活用した林業体験と農業体験を中心に据えた職場体験は、平成21年度から開始し、今年度で二回目を実施した。天候や作業内容の変化、生徒数の変動などにも対応するとともに、支援ボランティアも拡大し、教育課程に定着しつつある。



△ 体験林までの林道でも学習

2 実践の内容

(1) 林業体験の位置付けと系統性



(2) コーディネーターの活動内容

① 林業体験・農業体験

当該学年の原案作成段階から話し合いを行い、受け入れ事業所や協力農家と連絡を取り合いながら、日程や(学習)活動内容の調整を行う。また、林業体験の引率支援ボランティアを、地域や保護者から募集する。

② その他の授業での学習支援

- ・ 支援農家(学校評議員を含む)との連絡・調整
- ・ 家庭科の調理実習やミシンかけのボランティア募集
- ・ 選択(音楽)教科の箏曲演奏外部講師依頼
- ・ 授業に関連する地域諸団体との連絡・調整 等



△ 枝打ちの説明と師範



△ 間伐の説明と実演



△ 花卉園芸農家での実習

3 本実践(林業体験)における工夫点

(1) 学校

『地域を学び 地域で学び 地域と学ぶ』ことで生徒の『生きる力』を育む」教育課程の一環として、林業・農業体験から得られるであろう実感を重要視し、教職員や保護者への趣旨説明を丁寧に行った。また、生徒の学習成果を確かめながら随時具体策の改善を図った。さらに、引率職員代表が現地に出向き、現地の確認や安全対策などに対する打ち合わせも行った。

(2) コーディネーター

他の実践同様、実践前後の具体的作業記録を残している。事前準備に加え、各年度の実施後の成果や課題をもとに、次年度に向けての準備を行う。

(3) ボランティア

① 林業体験

自然環境保全に山林や樹木が果たす役割や、山林の維持管理の必要性の説明、枝打ちや間伐についての具体的作業の実演と解説及び安全管理を行う。現地補助員の手配や作業用具の準備も行う。また、看護師免許を有する保護者や学校評議員の引率の協力もあった。(事前募集)

② 農業体験

野菜栽培や花卉園芸の農家ごとに、扱う植物についての特徴や、栽培から商品となるまでの注意点や苦勞について説明するとともに、作業についての実演と指導・監督を行う。

4 それぞれの立場から見た本実践の意義・成果・感想等

学 校	コーディネーター	ボランティア
<p>生徒は、林業体験(や農業体験)を通して職業としての苦勞や大切さを実感できたことや、自然環境保護の意義を考えたり、地域の方々に対する感謝の気持ちをもったりすることができた。また、教職員は、この職場体験は魅力ある体験学習であり、そのねらいは達成され十分な成果が得られたと評価している。一方で、受け入れ事業所や協力農家の数と生徒数との関係や、職場体験学習の実施時期についての調整や検討などについては、今後の課題であり、工夫や改善が必要と考えている。</p>	<p>校外での体験活動を実施する場合、地域の方々の協力が不可欠であり、実施までの準備や事後の指導なども含め、細かな連絡や調整が必要で、改めて学校が地域の中にあることを実感した。</p>	<p>職場体験学習の受け入れ事業所や協力農家は、その趣旨を十分理解しとても協力的であった。生徒の活動を高く評価し、世代交流の大切さや中学生理解の深まりを感じていた。同行した学校評議員・保護者からは、貴重で楽しい体験であると評価され、本実践継続の強い要望があった。</p>

【授業にかかわる学習支援②】

戦争体験講話（社会） 高崎市立吉井西小学校

1 実践の概要

学習支援ボランティアは多岐にわたるが、コーディネーターが学校との橋渡しを行い、調整を行っている。学校からの学習のねらいを達成し、ボランティアと児童との触れ合いを大切にしながら活動できるように配慮している。また、毎年、新たなボランティアに対応していくことで、地域の変化や教育のニーズに適応できるように心がけている。今年度は、コーディネーターからの提案として、戦争体験ボランティアを取り入れた。

2 実践の内容

(1) 学校ボランティアの活動内容

学習支援	内容	時間	登録人数
英語活動	担任・ALT とともに、児童の英語活動のコミュニケーションスキルの幅を広げる。	随時	2人
書写	4・5・6年生は、書道の師範。 3年生は、書写学習のお手伝い	週4時間 週2時間	4人
社会	戦争体験講話 。茶の湯体験。地域学習における講話等	随時	随時
家庭	地域の専門家の方による裁縫指導。ミシン指導助手。 調理実習手伝い。	随時	9人
算数	教材作り、必要に応じて丸付け等。	随時	9人
水泳監視	水泳授業におけるプール監視。	夏季体育	24人
水泳指導	水泳授業における専門を生かした個別指導。	夏季体育	2人
マラソン試走監視	長距離走授業における試走監視等。	秋季体育	随時
クラブ活動	専門を生かした囲碁将棋指導。必要に応じて随時。	クラブ	随時
総合的な学習の時間・生活科（農業支援等）	総合の時間における米作りにおける講話・土づくり・播種・栽培・収穫・精米までの一連の専門的指導。生活科等における野菜作りにおける同様の専門的指導。 加工における補助・指導。わら細工等。	随時	6人

その他、学習支援については、単元内容や担任のねらいや学習過程においても必要性が異なるので随時、フレキシブルに対応できるフリーボランティア（12人）を登録している。

(2) コーディネーターの活動内容

ボランティアの募集・登録、名簿の作成・ボランティアリーダーやボランティア、職員との調整と打合せ・ボランティアとの情報交換・連携職員との調整・当日の打ち合わせ・資料手配・当日授業参観・活動の記録、まとめデータ作成(写真・テキスト)・送迎



英語活動ボランティア



社会(茶の湯ボランティア)



書写ボランティア



総合(農業支援ボランティア)



社会(戦争体験講話)



家庭科ボランティア



水泳指導ボランティア



クラブ(将棋ボランティア)



総合(わら細工)

3 本実践（戦争体験講話事例）における工夫点

(1) 学校

コーディネーターからの提案を受け、担任に説明。担任より、授業に取り入れたいとの意向を聞き、コーディネーターに伝えるとともに、校内職員に伝える。学年主任は学習単元の内容を学年間で打ち合わせ、連携職員は当日日程など校内体制を整える。

(2) コーディネーター

地域との交流のなかから、戦争体験について児童に伝わる話をされている Y さんを見つけ、学校に推薦した。学校からの了解後、Y さんとの細かい打合せを進める。事後も連携。

(3) ボランティア

高齢であるが、自分史を用意し、コーディネーターに「学校で児童に事前に読んでおくように」依頼する。その後、文章内の当時の言葉について補足をコーディネーターに伝えたり、当日に向けてメモを用意したりし、当日に向けて準備をした。

4 それぞれの立場から見た本実践の意義・成果・感想等

学校	コーディネーター	ボランティア
戦争実体験者の貴重な講話により、児童の心に響く学習が展開できた。学習の場を1階にするなど高齢者への配慮をしていく。	提案が実現でき、効果があった。地域人材を活用し、人とのつながりを広げたい。	初めての訪問であったが、児童に伝えるために気を配った。児童の受け止め方を知りたい。

【授業にかかわる学習支援③】

えんぴつけずり教室（3年 図画工作） 中之条町立中之条小学校

1 実践の概要

図画工作の授業における切り出しナイフの使い方を学ぶため、鉛筆を削る体験を取り入れた学習を行った。

地域ボランティアと保護者併せて11名の協力により、各班に1名程度の指導者が付き子どもたちの学習の支援をすることができた。

2 実践の内容

（1）学校支援ボランティアの活動内容

- ・授業の前に、授業の進め方や役割分担、切り出しナイフの使い方を確認した。
- ・代表者が実物投影機を使いながら、切り出しナイフの使い方を説明した。
- ・各班に分かれて、切り出しナイフの出し入れや持ち方を指導した。
- ・児童が鉛筆を削る体験を行い、個別に指導した。
- ・分からない児童には手を添えて持ち方を教えたり、励ましや賞賛の声掛けをしながら進めた。



ボランティアの皆さん



全体指導



個別指導



（2）コーディネーターの活動内容

- ・学年主任からの依頼で、ボランティアを選定して了解を得た。
- ・保護者ボランティアの協力を学級毎に依頼して貰った。
- ・授業計画の立案に協力し、切り出しナイフの使い方の説明を担当した。
- ・当日の打ち合わせで、学年主任と共にボランティアに授業内容や切り出しナイフの使い方を説明した。
- ・授業後に反省会を持った。

3 本実践における工夫点

(1) 学校

- ・児童の実態に合わせて、切り出しナイフの使い方を学ぶための時間を設定し、その後の作品作りの授業につなげるようにした。
- ・鉛筆の削り方が指導しやすいように、広場を使って学習を行った。
- ・地域ボランティアと保護者及び担任外の教員により、各班に1名以上の指導者が付くように分担した。
- ・児童には事前にボランティアに対する接し方を指導し、また学習終了後には、お礼の気持ちを表す手紙を書き郵送した。

(2) コーディネーター

- ・学年主任を中心にした担任チームと話し合いを重ね、使い方練習と安全面を考慮した学習内容になるような授業案を作成した。
- ・ボランティアとの事前連絡により、学習内容や分担についての調整を行った。
- ・当日の打ち合わせで分担や使い方の共通理解を図った。
- ・反省会を持ち、今後の活動に生かすように努めた。

(3) ボランティア

- ・授業前に、担当分けや切り出しナイフの使い方を確認して、共通理解を図った。
- ・打ち合わせでは、積極的に考えを出し、補助の仕方を確認しあった。
- ・鉛筆を削る活動では、言葉だけでなく、手を取って持ち方や力の入れ方を個別に指導し、賞賛の言葉がけも積極的に行っていた。

4 それぞれの立場から見た、本実践の意義・成果・感想等

学 校	コーディネーター	ボランティア
<ul style="list-style-type: none">・危険性の高い切り出しナイフを使った工作の授業を実施する前の使い方の予行練習ができた。・多くの協力者により一人一人の子どもたちに使い方を理解させることができた。・地域ボランティアの協力で細かな指導や声掛けができ、子どもの達成感が大きかった。	<ul style="list-style-type: none">・切り出しナイフの使い方を児童に指導することにより、授業効率も上がり、安全性が高まった。・教師の発想を具現化でき、ボランティアの導入を推進するためのよい事例となった。・日常の授業にも教員が必要とする場面を見つけ、ボランティアの導入を働き掛けていきたい。	<ul style="list-style-type: none">・安全に注意しながら、担当の子どもたちを指導することができた。・よくできた子にはほめ言葉を掛けることができた。・子どもたちが大変素直で、やりやすかった。・後日感謝の手紙を頂き、とても感激した。今後も、引き続き役に立ちたいと思っている。

【授業にかかわる学習支援④】

ミシン指導（５年 家庭科） 中之条町立沢田小学校

1 実践の概要

５年生の家庭科の授業（被服分野）でお弁当袋とクッション作りを学習する時に、ミシン操作を指導する場面で、ほとんどの児童はミシン操作が初めてのため、ボランティアの補助を依頼し、授業が展開された。

<授業日> 10月6日、10月14日、10月21日 各2時間

2 実践の内容

（１）学校支援ボランティアの活動内容

児童27名にミシンを2人に一台を与え、3名のボランティアがそれぞれの班を分担し担当教諭の指示に従って指導補助を行った。

（２）コーディネーターの活動内容

担当教諭からミシン操作の補助をするボランティアの依頼を受けたので、定期的に発行している広報「学校お助け隊だより」で公募したところ、3名の応募があった。

打ち合わせ後、授業では、各班に分かれて作業の助言をし、作品作りに協力した。



「授業前打ち合わせ」



「担任による全体説明」



「ボランティアの補助」

3 本実践における工夫点

（１）学校

- ・打ち合わせの時間をもち、昨年度の課題等を出し合いながら共通理解を図った後、授業に臨んだ。
- ・児童には事前にボランティアに対する接し方を指導し、また単元終了後には、お礼の気持ちを表す手紙を書き郵送した。

（２）コーディネーター

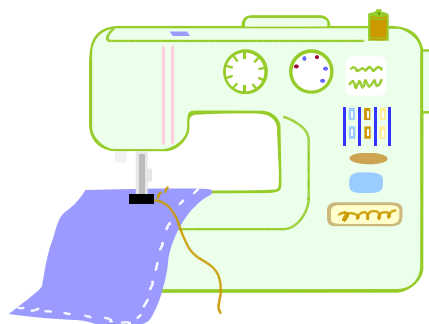
- ・児童数は学年1学級27名であり、担当教諭一人のみの指導に限界があるため、機械操作の安全性を考慮して、ミシン操作のベテランボランティアに依頼した。
- ・ボランティアには、担当教諭の指示に従うよう説明した。
- ・担当教諭には、児童にボランティアへの感謝の気持ちを持たせることを指導して貰った。

（３）ボランティア

- ・教え方、師範の仕方等、児童たちが習得しやすいように、ボランティア自身も実践前に研究してきてくれた。
- ・打ち合わせでは、皆積極的に考えを出し、補助の仕方を話し合った。

4 それぞれの立場から見た、本実践の意義・成果・感想等

学 校	コーディネーター	ボランティア
<ul style="list-style-type: none"> • ミシンの操作は、トラブルが起きると、教師一人では短時間に対応しきれない。複数の指導者による対応で、時間の効率化が図られる。 • グループ毎に児童の目の前で師範をすることにより、ミシン操作が分かりやすくなり、技能の習得につながる。 • 感謝の気持ちの育成を図ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> • ミシンの専門的な知識・技能を児童に指導することにより、授業効率も上がり、機械操作の安全性が高まる。 • 外部の方々と、授業を通じて会話や交流があることは大切であると考えている。 • 担当教諭の仕事量が軽減され、指導にゆとりが生まれる。 • ボランティアの継続的な指導が望ましい。 	<ul style="list-style-type: none"> • ボランティアが昨年度と同じ方々だったので、気心も知れており、気軽に行うことができた。 • 補助をすることで、自分自身も、教え方の勉強になった。 • 子どもたちが大変素直で、やりやすかった。後日感謝の手紙を頂き、とても感激した。今後も、引き続き役に立ちたいと思っている。



【授業にかかわる学習支援⑤】

こんにゃく作り （5年 総合的な学習の時間） 中之条町立名久田小学校

1 実践の概要

地域の特産物である「こんにゃく」を栽培から加工までの過程を学ぶ学習である。

地域の農家の協力により、学校脇の畑を借りて植え付けから掘り取りまでの作業を体験しながら「こんにゃく芋」を栽培し、この芋を使い「こんにゃく」に加工する活動を行う。

2 実践の内容

(1) 学校支援ボランティアの活動内容

◇「こんにゃく芋」栽培（5～11月）

- ・畑作り…地域の農家の方が畑の起耕や堆肥等肥料の鋤き込み行ってくれた。
- ・こんにゃく芋の植え付け…農家の方の指導で、溝を作って芋を置き、土を被せる作業を行った。
- ・栽培管理・掘り取り…除草や消毒と掘り取り作業も農家の方の協力があった。



「さく立て」



「こんにゃく芋並べ」



「土掛け」

◇「こんにゃく」加工（11月）

- ・婦人会員8名の協力で収穫した芋をこんにゃくに加工した。
- ・材料や道具の準備を婦人会員が行い、授業時間内で調理と片づけができた。
- ・事前の試作品をあく抜きをしている間に子どもたちに試食させた。

<工程>切る→茹でる→皮むき→砕き（ミキサー使用）→煮る→ソーダを入れ混ぜる
→広げて冷ます→切ってあく抜きをする



「皮むき」



「煮る」



「広げて冷ます」

(2) コーディネーターの活動内容

- ・農家の方と学校で栽培の年間計画を立てるときに協力する。
- ・婦人会の方との打ち合わせや準備に協力する。
- ・農作業の準備や体験活動時の手伝いを行う。

3 本実践における工夫点

(1) 学校

- ・授業時間に合わせて、作業日程を組み、代表者に協力依頼を行う。
- ・必要な道具や材料の準備をボランティア代表と打ち合わせながら準備する。

(2) コーディネーター

- ・学校担当と連絡を密にして、ボランティアが準備等の活動がし易いように配慮する。
- ・活動日には児童とボランティアの間に入り、担任と共に体験活動の仲立ちを行い、学習効果が上がるように努めている。
- ・終了後にボランティアからの反省や要望を聞き、学校側との調整を図っている。

(3) ボランティア

- ・栽培活動のボランティア代表を中心に畑の準備や日常管理の計画を立てた。
- ・代表が活動日に合わせてボランティア手配を行った。
- ・調理のボランティア代表により、材料や道具の準備を行った。
- ・終了後には、反省を行い、今後の活動に生かすとともに学校への要望も伝えた。

4 それぞれの立場から見た、本実践の意義・成果・感想等

学 校	コーディネーター	ボランティア
<ul style="list-style-type: none">・特産物の学習に体験活動を取り入れ、地域の人との交流により、学習が深まる。・栽培活動では、畑作りや日常管理など、学校だけでは手に負えない部分を進んで協力して貰い、感謝している。・加工調理では、準備から後かた付けまで協力して貰い、短時間で学習することができ、教員の負担が軽減している。	<ul style="list-style-type: none">・学校と連絡を取り合いながらボランティアとの調整を図る。・体験活動に参加して、子どもたちとボランティアの間に入り効果的な学習になるように支援を行う。・主体的なボランティアの活動に感謝している。	<ul style="list-style-type: none">・代表者を中心にして、自主的に活動する組織が確立している。・地域の子どもたちを育てるために積極的に協力している。・子どもたちの喜ぶ顔と感謝の言葉を励みにして、意欲的に活動に参加している。

【授業にかかわる学習支援⑥】

健康教室（3～6年 総合的な学習の時間） 中之条町立六合小学校

1 実践の概要

児童が、病気や障害を抱える人々が住み慣れた自宅で生活することの意味、その人らしく生活するについて考える機会を得る。障害者の存在を前提にした社会の在り方を見つめ、自分が社会のためにできることを考える能力を養うとともに、そこに関わる職業の存在を理解し、その職業への関心を高める。

○目標

- ・病気や障害を持ちながら地域（在宅）で生活する人々の存在を知る。
- ・病気や障害を抱える人々の生活の様子を知り、自分たちと変わらないことを知る。
- ・病気や障害を持ちながら地域（在宅）で生活する人々を支援する方法を知る。
- ・病気や障害を持ちながら地域（在宅）で生活する人々を支える職業（訪問看護や訪問介護等）を知る。
- ・病気や障害を持ちながら地域（在宅）で生活する人々に、社会の一員として自分のできることが考えられる。
- ・将来の進路として看護・介護職に関心を持つ。

<実施日>

5月12日 13:30～15:30

2 実践の内容

（1）学校支援ボランティアの活動内容

六合小学校は地元の医療センター、診療所との連携を密にして、健康教育を推進している。特に、医療センターは自治医大系列の僻地医療を行っていることから、自治医大と連携して「福祉講座」の学習を行った。



「講師紹介」



「体位変換」



「グループ学習」

（2）コーディネーターの活動内容

医療センター、診療所と連絡をとり講師の選定を行い、医療センターから自治医科大学に講師の要請をした。

3 本実践における工夫点

(1) 学校

- ・医療センターと診療所と連絡を取り合い、授業日を決定した。
- ・小規模校のため、小学校3～6年生を対象に学習し、継続した学習効果が得られた。
- ・地域の施設の協力により、児童に福祉について理解が深まった。

(2) コーディネーター

- ・六合小学校の特色ある行事の1つとして、ボランティアの継続的な協力をお願いした。
- ・本授業の取組を、町内広報紙や各種研修会等で広く紹介した。

(3) ボランティア

- ・六合温泉医療センター、授産施設の方々などいろいろな立場の人たちにお世話になることができ、連携を深めることができた。
- ・障害者の存在を前提にした社会のあり方とそれ関わる職業への存在意義を児童に高めることができた。
- ・学校と事前に打ち合わせを十分することができ、教育効果を高めることができた。
- ・以前から、自治医大の実習生を受け入れてもらっているので、児童も自然に学習に取り組めることができた。

4 それぞれの立場から見た、本実践の意義・成果・感想等

学 校	コーディネーター	ボランティア
<ul style="list-style-type: none">・六合地区のお年寄りの方々の様子や、六合温泉医療センターの役割などをよく理解することができた。・今回の学習を通して、病気や障害を抱える人の思いや願いを理解することができた。・介護実習を通して、介護の大変さや大切さを理解することができた。・看護や介護の職業への関心が高められた。	<ul style="list-style-type: none">・病気や障害を抱えている人々が在宅であることを児童が理解することと、将来の看護職、介護職に関心を持つことは大切であると考えます。・本地区は医療センターを有していることから、学校との有機的な連携がなされていることは素晴らしいことであると思う。・本地区は高齢者人口が高いことから、特に高齢者の福祉を理解することは現代的な課題であり、学校の教育計画に位置付けている意義は大きいと思う。	<ul style="list-style-type: none">・グループワークをすることで、いろいろな児童の意見や思いを取り上げることができた。・講師の話、DVDの視聴、介護体験等様々な教材・教具を使用することで教育効果を高めることができた。・小学校の先生の協力により、よりよい学習を進めることができた。

【授業にかかわる学習支援⑦】

職場体験学習（2年 総合的な学習の時間） 中之条町立中之条中学校・西中学校

1 実践の概要

- ・キャリア教育の一環として、地域の事業所で中学2年生が、連続した日程で職場の仕事を体験しながら、地域社会人や職業人と直接触れ合い、職業に対する考えや自分の進路、さらには自己の生き方について考える等、勤労意識を高めるといふねらいで実施した。
- ・事前学習の内容や受け入れ事業所の選定を中心に地域コーディネーターが関わり、学校と事業所やボランティア講師との橋渡しを行った。

2 実践の内容

（1）学校支援ボランティアの活動内容

①事前学習

【中之条中】◇1年生 12月16日 「職業人の話を聞く会」

- ・町内の3名（時計店社長、障害者授産施設理事長、農園代表）により、職業の立ち上げと現状など事業所での体験話を聞いた。

◇2年生 8月31日・9月1日 「マナー学習」

- ・挨拶や自己紹介の仕方を実技を取り入れながら学んだ。

【西 中】◇2年生 9月8日「マナーアップサポート学習」

- ・事業所の概要や設立からの苦労、職業人としての礼儀や挨拶、報告などの重要性を聞いた。

②職場体験

【中之条中】59事業所（生徒118名）

- ・9月7日（火）～9日（木）の3日間
- ・生徒1～6人を受け入れ、事業所の仕事によって体験内容の工夫した。

【西 中】17事業所（生徒34名）

- ・9月28日（火）～30日（木）の3日間
- ・生徒1～5人を受け入れ、事業所の仕事によって体験内容の工夫した。



「花のアレンジメント」



「薬選びの説明」



「自動車の点検」

（2）コーディネーターの活動内容

- ・事前学習の講師選定や事業所への受け入れ依頼などを担当した。
- ・受け入れの依頼や打ち合わせ、礼状配布等で数回の事業所訪問をした。
- ・学校の担当教諭と密に連絡を取り合い、事前学習等に参加して生徒とも交流を図った。
- ・体験日には事業所を訪問して、学習内容の観察した。
- ・事業所と生徒には事後アンケートを依頼し、集計を行って成果と課題をまとめた。

3 本実践における工夫点

(1) 学校

- ・生徒の希望に沿った職場選定のために、希望調査や面談を行って事業所を決定した。
- ・事業所決定後、学年担当教諭や生徒から事業所に連絡を取り、事前の打ち合わせをした。
- ・自己紹介カードや礼状、報告書の作成など行い、事業所に対する情報提供や事業報告を行った。
- ・交通手段や緊急時の対応方法など細部に渡る計画を立て実施し、当日は、管理職と学年担当が手分けして事業所の訪問を行った。
- ・事後に礼状や報告書を作成して事業所に配り、感謝の意を表し、学習の成果を報告した。

(2) コーディネーター

- ・学年担当と緊密に打ち合わせを行いながら、また、各事業所とのコミュニケーションを取りながら仲介役を務めた。
- ・受け入れ先の依頼や礼状等の配付では、直接、事業所を訪問して趣旨や内容を説明し、職場体験学習の理解を得るように務めた。
- ・事前学習やその他の学校授業や行事に出来るだけ参加して、生徒とも顔見知りになって本番の学習での助言ができる関係を作り上げておいた。
- ・広報「学校お助け隊だより」で事前と事後に職場体験学習の内容を紹介して、町民への本学習の理解に努めた。
- ・「職場体験学習実施中」の掲示物を作り、各事業所の訪問者への周知の一助と成るように工夫した。
- ・事後には、事業所と生徒にアンケート調査を実施し、学習の成果と今後の課題について評価してもらい、調査結果を分析して学校と事業所に報告した。

(3) ボランティア

- ・多忙な日常業務を割いて生徒を受け入れ、中学生に見合った体験を考えて活動させてくれた。
- ・職場のマナーや対人方法等を教えながら、労働の楽しさや厳しさを実践的に示してくれた。
- ・生徒の学習への姿勢や事前事後の対応などにより、今後も職場体験学習を受け入れてもよいと言う事業所が9割以上あった。
- ・受け入れ体制を整えるため、仕事のあり方や手順などを確認でき、仕事の見直しに役だった。

4 それぞれの立場から見た、本実践の意義・成果・感想等

学 校	コーディネーター	ボランティア
<ul style="list-style-type: none">・事業所の依頼や調整などきめ細かな活動により、受け入れ先の理解が高まり、教師だけでは不可能な、学習し易い環境作りができた。・依頼文や礼状、報告書の発送などの事務的作業をコーディネーターに依頼したため、生徒への事前や事後の指導に多くの時間を掛けることができた。	<ul style="list-style-type: none">・事業所訪問により職場体験学習への理解を深め、受け入れ事業所の拡大に繋がった。・受け入れ事業所との話し合いや事前学習などに両校の同一歩調が取れ、きめ細やかな打ち合わせができた。・広報に取り上げて、町民に学習の内容を広め、本学習への関心を高めることができた。	<ul style="list-style-type: none">・中学生の受け入れにより家庭や学校での企業価値が高まり、将来の就業へのつながりも期待できる等、地域貢献ができた。・大変気苦労も多いが、中学生に刺激を受けて職場の活性化に繋がった。・作業を手伝って貰ったり、来訪者から賞賛の声が上がったりと、企業に貢献して貰った。

【授業にかかわる学習支援⑧】

シラネアオイの植栽（総合的な学習の時間）

中之条町立六合中学校

1 実践の概要

六合中学校では、地元の自然保護活動として、絶滅寸前の野反湖周辺のシラネアオイの増殖を考えていた地元の方と協力して、15年前から野反湖畔の八間山麓に植栽活動を行ってきた。

地元の方の指導を受け、生徒と役場職員、地元ボランティアや林野庁職員、県内ボランティアグループ等、多くの人々の協力により、植栽活動を行っている。毎年2000株の苗を植え続け、およそ7万株のシラネアオイが見事に咲き誇っている。

<実施日> ◇シラネアオイの見学（3年）5月28日

◇シラネアオイの苗掘り（1年）9月24日

◇シラネアオイの植栽（2年）9月27日

2 実践の内容

（1）学校支援ボランティアの活動内容

<苗掘り>

- ・地元の方が、所有する山林で苗の育成をし、植栽の準備としての1年生が行う「苗掘り」の作業を指導している。

<植栽>

- ・地元の方の指導で、八間山に登り、2年生と地元ボランティアや林野庁職員、県内ボランティアグループ等、多くの人々の協力により、苗の植栽を行っている。

<見学>

- ・地元の方の案内で、3年生が花の咲く様子を見学に現地に登っている。



苗掘り（9月）1年



植栽（9月）2年



観察（5月）3年

（2）コーディネーターの活動内容

- ・本事業は長年の歴史的な活動であり、地元ボランティアの継続的な支援をお願いしている。
- ・苗掘や植栽に携わって活動の様子を見聞きし、ボランティアや生徒の交流を図った。

3 本実践における工夫点

(1) 学校

- ・指導者とシラネアオイの生育状況の連絡を取り合い、活動日を決定している。
- ・中学3年間の継続した活動とし、シラネアオイの植生や環境保全の取組を深く理解する。
- ・中学生が植栽活動の開閉会式の進行を務めることで活動意欲を高めるとともに、郡内外のボランティアと触れあうことで、コミュニケーション力を高める。
- ・故郷の素晴らしい自然とそれを支えてきた先人の活動に自信を持ち、郷土愛を育成する。

(2) コーディネーター

- ・六合中学校の伝統ある学習活動であり、ボランティアの継続的な協力をお願いした。
- ・中学生の取組を、合併町村や郡外に広報紙や報告会で広く紹介した。

(3) ボランティア

- ・六合支所より植栽活動の通知をもらったり、ホームページで調べたりして参加している。
- ・毎年、秋の植栽活動と初夏の開花時期の2回、野反湖を訪れる人がたくさんいる。

4 それぞれの立場から見た、本実践の意義・成果・感想等

学 校	コーディネーター	ボランティア
<ul style="list-style-type: none">・故郷の豊かな自然やそれを支えてきた先人の尽力を身をもって感じ取ることができ、郷土愛と環境保全の心を育てることができた。・3年間継続した取組のため、日頃から環境美化やボランティア活動への意識・意欲が高い。・文化祭やホームページ等で活動の様子を紹介することで、自信と成就感を体得することができた。	<ul style="list-style-type: none">・生徒は地域の環境美化や保護活動を通して、地元ボランティアの方々との交流や連携ができていたことは素晴らしいことである。・本事業は学年ごとに手分けをして実施する全校体制での取組であり、教育計画の中に位置付けられている特色ある行事である。・今後もボランティアの継続的な協力を望みたい。	<ul style="list-style-type: none">・素晴らしい自然をただ眺めるだけでなく、自ら汗を流し保護・保全に協力できたことは大きな喜びである。・毎年参加して、たくさんの仲間や中学生と会えることも楽しみのひとつである。

【授業にかかわる学習支援⑨】

点字学習（４年 国語） 沼田市立沼田東小学校

1 実践の概要

４年生の国語「調べて発表しよう『伝え合う』ということ」の授業の中で、点字の学習支援ボランティアを社会福祉協議会にお願いした。児童は視覚に障害のある人の生活を想像したり、日頃意識することがない点字を学習したりしながら「伝え合う」ことの大切さや意義を学習した。児童からの質問に答えたり、実際に簡易点字器での実習をしたりするために、専門的な知識をもつ方に支援に入ってもらい効率よく学習活動を進めることができた。

2 実践の内容

（１）学校支援ボランティアの活動内容

- 児童の調べ学習の質問に答えた。
- 点字についての話（実物の資料を持ってきて回覧）をした。
- 参考資料として、点字で打った単語集を事前に作成したものを児童に配布した。
- 点字器を使って「しおり（名前）」づくりを指導した。
- 放課後、児童の個別の質問を受けた。

（２）コーディネーターの活動内容

<学社連携推進担当>

- 担任から学習の依頼を受け、その活動が可能かどうかをコーディネーターに相談した。
- 実施にあたって、担任とコーディネーター相互の連絡・調整役として関わった。

<コーディネーター>

- 社会福祉協議会に出向いて、点字の指導ができる人を紹介してもらい、授業日や内容及び事前打合せの日程等を調整した。
- 担任と学習支援ボランティアを交えた細かい打合せを行った。
- 児童配布用の資料を作成した。
- 前日、社会福祉協議会まで点字器を借りに行った。
- 当日、ボランティアルームで打合せをし、学習支援の確認をした。
- 授業後、社会福祉協議会にお礼と点字器の返却を行った。



←点字の実物を
児童に見せる。

簡易点字器で →
しおり作り



3 本実践における工夫点

（１）学校

- ・国語学習をより確かなものにするために、点字について専門の方からの指導による、点字をつくる・読むなどの具体的な体験活動を設定した。
- ・学年全体の児童が一斉に受講できるように場を設定した。

(2) コーディネーター

- ・学校と社会福祉協議会、学校支援ボランティアとの連絡・調整を行った。
- ・支援の内容に応じて用具（簡易点字器、参考資料、具体物等）を準備した。

(3) ボランティア

- ・学習の興味関心を深めるために、名前を点字で打ったしおりを作成させ、活動の足跡を残した。
- ・4年生の児童に分かりやすく話をしたり、興味をもたせるために自分の名前をしおりにするなどの具体的な活動を取り入れたりした。

4 それぞれの立場から見た本実践の意義・成果・感想等

学 校	コーディネーター	ボランティア
<ul style="list-style-type: none"> ・目の不自由な人の立場に立った「伝えあい」が学習でき、日頃意識の低かった点字を再確認することができた。 ・教師以外の専門的な立場の人から話を聞くことは、児童にとって新鮮であり、興味関心をもち、有効な学習活動が展開できた。 ・学習支援ボランティアが入ることにより、学習の質的向上が図れた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が興味をもって学習に参加している様子や担任の先生の指導の深まりを見ていると、パイプ役として役に立って良かったと思う。 ・学習支援として情報を提供できるようにアンテナを高くもつ必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習のお手伝いとして児童の中に入って行ったとき「小学生がこんなにも点字に興味をもってくれているのか」と感心したり、驚いたりした。 ・点字を普及させる立場の者として、このような学習をすることによって、将来体が不自由な人に対して開かれた社会を作ってくれるだろうと思われた。

5 その他の授業に関わる学習支援ボランティア

<1年>生活「昔の遊び体験」



<1年>生活「動物ふれあい」



< 2年 > 生活「町探検の引率補助」



< 2年 > 生活「おはやし体験」



< 3年 > 校外学習「戸神山の遠足引率補助」



< 3年 > 書写「書き初めの練習」



< 4年 > 音楽「民謡こきりこ」



< 4年 > 総合的な学習の時間「環境学習で廃油で石けん作りとバイオエンジン」



< 5年 > 家庭「ミシンの学習補助」



< 5年 > 家庭「調理実習補助」



< 6年 > 総合的な学習の時間「史跡めぐり引率補助」



< 6年 > 体育「スポーツテスト測定補助」



【授業以外の学習支援①】

地域の支援を受けて無農薬野菜をつくる「食農学習」

前橋市立元総社中学校

1 実践の概要

本校では教育方針を「学校は社会性を身に付ける場・学力を身に付ける場・自らを鍛える場」としており、学業だけでなく人間性を育むことを大切にしている。その一環として平成17年度より学校直近の畑600㎡を借用し、学校農園「元中ふれあい農園」を活用した農業体験学習を実施してきた。当初、ボランティアを募集した際には応募が無かった為、地域の農業従事者によるボランティアグループに依頼して事業を開始した。生徒の積極性・協調性・判断力・洞察力・発想力等を高めることに役立っている。

当初はサツマイモとジャガイモから始め、試行錯誤を繰り返しながら種類を増やし、現在では地元の銘柄でありながら店頭から姿を消した石倉一本葱も毎年収穫している。収量も増え、給食センターと連携し給食の材料に活用されている。

平成20年度からは、より充実した内容へと検討・調整を図り、体験の機会を増やし、また収穫した野菜を家庭で自ら調理し家族で食事する機会を作るなど食育へと繋げる学習へと発展させた。食べ物や食生活について考えることにより、地域の農業や環境問題に関する理解を深めたり、生徒に幅広い職業観を培ったり、社会性を育てることに役立ち、本校の特色ある学校づくりの柱となっている。

今年度は、活動を地域へ広げる試みとして収穫した野菜を公民館で無償提供し好評を得た。又、活動を継続するなかでボランティアグループの高齢化が心配されており、新たに募集を試みたところ保護者や関連する地域の方から応募があった。ボランティアの増員は喜ばしいことであるが、新たな農業関係者の加入がなかった。農業関係者の協力をいかに継続していけるかが今後の課題となっている。



2 実践の内容

(1) 学校支援ボランティアの活動内容

①実施内容 専門的な知識、経験から作物ごとの肥料の種類・量、季節ごとの土作り、種まき、定植、追肥、収穫の時期についてのアドバイスと手順・方法・道具等についての指導を行う。

作業日の生徒への指導と補助。

地域の農協と連携し、種や肥料等について相談を行う。

②実施方法 生育状況は気候に左右される為、作柄を観察し作業時期の見通しを報告。

コーディネーターや食農担当職員と相談・打合せを行い、決定した内容に基づいて当日の指導・補助を行う。

(2) コーディネーターの活動内容

①農業指導ボランティアの指導を受け農園を管理、除草等の必要に応じて作業ボランティアを要請。

②農業指導ボランティアと打合せを行い、食農担当職員へ報告。作業の内容に合わせて参加する生徒の人数等選定、作業時間等を相談。校内の調整を経て決定した作業日程に合わせてボランティアとの連絡・調整を行う。また、天候等による日程変更の連絡を行う。

③作業計画の管理職への報告。作柄や作業の内容について記録。

④肥料・種苗等の発注と管理。

⑤農協、新聞取材等との連携。

⑥新規のボランティア募集と、応募者に対する説明会を設定、実施。

⑦昨年度、生徒が自分で収穫した玉葱を家庭で調理したレシピを募集し「収穫した玉葱を使った料理のレシピ集」を作成。生徒全員に配布した。



3 本実践における工夫点

(1) 学校

- ・食農担当職員が中心となり全職員の協力の下、授業や課外活動でどのような形態・内容で作業を採り入れるか、またどの時間に組み込むかを検討し、効果的な活動の実施に努めた。
- ・学年毎や、部活動単位、授業時間での作業となる等、場合に応じて作業に関わる職員が生徒と共にボランティアの指導を受け、共に作業することで姿をみて学ぶ機会となり、苦労や感動を共にする機会とした。
- ・ボランティアとの挨拶を忘れず会話を交わし、感謝を表す等の交流を心掛けた。

(2) コーディネーター

- ・ボランティアと共に作業し、ボランティアとのコミュニケーションに努めた。
- ・ボランティアとの連絡や調整等がスムーズに行えるように日頃の会話を心掛け、ボランティアが気軽に来校し打合せができるよう配慮した。また、新規ボランティアの不安や疑問を気軽に相談できる様にする等、心理的負担を軽減し参加しやすく長く続けて頂けるよう配慮した。
- ・ボランティアからアイデアや意見などを伺うことで参加の意義を高め、意欲を持って活動を継続できるように努めた。伺った意見をまとめ、すぐに対応していける事と時間のかかる事、採り入れられない事を選択して校内で調整し結果を報告した。
- ・職員のボランティアへの感謝が直接伝えられない場合、代わってそれを伝えた。



(3) ボランティア

- ① 生徒全員が安心して畑に入れるように完全無農薬で栽培指導している。
- ② 作業では生徒が怪我をせずに作業できるよう安全面に配慮して行う。

玉ねぎ苗の定植作業

4 それぞれの立場から見た、本実践の意義・成果・感想等

学 校	コーディネーター	ボランティア
<p><生徒の感想文></p> <p>食農学習で楽しみなことはやっぱり収穫です。夏の暑い中、草むしりや手入れをするのはすごく大変だけど、その分沢山収穫できた時の喜びは大きいです。友達と大きさを比べをしたり、畑にいるかえるを触ったりするのもまた楽しみです。収穫は私だけでなく、家族も楽しみにしています。自転車のかごいっぱい野菜に祖父はいつも感心しています。祖母と母は、その野菜で食事を作ってくれます。ふと、「幸せだな」と感じます。</p> <p>食農学習が行えるように協力して下さる人達に感謝します。食農学習は元中の自慢だと思います。私達が卒業してもずっと続いてほしいです。</p> <p><教師からの感想></p> <p>食農学習を継続できる一番の要因は支援農家の方の熱心なご指導にあると感じます。その橋渡しをするのが教員の役割であり、さらに地域のボランティアの方々の協力も得てこのような素晴らしい活動ができていると思います。</p> <p>生きることは食べることです。食という身近な事を作ることから見直し、その大変さと頂ける事の有り難さをさらに実感できるように、今後も取り組んでいきます。</p>	<p>学校農園は4年目となり定着し始めたところで、さらなる充実と発展をめざす時期を迎えていました。雑多な作業をボランティアに頼り生徒は収穫が主ということにならないように、限られた時間であっても出来るだけ土に触れる機会をもたせたい。そして、学校農園を活かした食農学習につなげたい。という目標に向けて、担当職員とボランティアと共に考え、計画し、ひとつひとつ実施してきました。</p> <p>その甲斐あって、生徒は様々なことを学んでいます。小さな種から芽が出てやがて大きな野菜になる感動や畏敬の念、畑で暮らす虫や蛙などの生き物の存在や食物連鎖、働くこと苦労や大切さ、先輩の作業の手際よさと真剣な態度、熟練者の生きた知恵に対する尊敬、地域の方の愛情。言葉では教え難いことを肌で感じています。</p> <p>支援を頂くばかりでなく地域へお返しする為、収穫した野菜を公民館で無料配布することになりましたが、急速生徒の手書きメッセージが添えられ、進んで重たいコンテナを持ちたがりました。届けた野菜は地域の方々にご好評頂いています。</p>	<p>何か役に立てることがあればとボランティアに応募しました。不安はありましたが、説明会で興味が膨らみました。</p> <p>初めて参加したのは石倉葱の植付け作業でした。生徒と一緒に夢中で作業していると時間の経つのも忘れ、あっという間に青いネギ畑になり成長を楽しみに思いました。大根は種を蒔いて何日後かに見に行くともう立派な大根畑になっていました。</p> <p>秋の収穫はサツマイモに始まります。蔓は重くて片付ける作業は大変ですが、生徒はなんやかやと楽しそうで、一緒に作業するのは楽しくて苦労とは思いませんでした。掘る時には生徒が歓声をあげながら一生懸命掘っていました。大根の収穫では生徒から「持ち上がらない!」との歓声があがり思わず笑いがおこりました。ご指導の先生から「無事収穫の日を迎えられたのは、たくさんの方々のご協力のお蔭なので、感謝の気持ちを忘れないで戴きなさい。」とのお話があり、私も同じ気持ちになりました。</p> <p>生徒と接しながら色々なことを楽しく学ぶことができ大変うれしく思っています。</p>

【授業以外の学習支援②】

読み聞かせボランティア 高崎市立吉井西小学校

1 実践の概要

授業以外の支援は学校の学習環境を整え、児童一人一人学習への意欲を高め、基礎的な力を付けるために大切である。また、担任が児童と向き合う時間を確保し、児童の学びを周りから支えるものである。読み聞かせボランティアは、11年もの間、児童の心を豊かにし、本好きの児童を育てたいという地域のボランティアの願いによって、支え続けられてきた。誰にでも取り組みやすく、児童と直接ふれあえるボランティアとして人気が高い。さらに、ボランティアリーダーを中心に自主的な運営が確立している貴重なボランティアである。

2 実践の内容

(1) 学校ボランティアの活動内容

ボランティア名	内容	時間	登録人数
読み聞かせ 「おはなしみみずくの会」	各クラス1～2名による読み聞かせ・「読み聞かせ通信「みみずく便り」」発行・読み聞かせ会議を毎回行う。	通年/ 第1火曜日	25人
図書	カウンター業務の補助、本の修理、新着本の登録、書庫の整理(読書活動推進教諭及び図書事務との連携)	通年/毎日午前と 午後の休み時間(当番制)	17人
鼓笛指導	地域の専門家や経験者による金管・打楽器の基礎とパート練習指導。	4月～8月	5人

(2) コーディネーターの活動内容

学校からの年間計画を受け、読み聞かせボランティアリーダーに、具体的な活動計画を依頼する。ボランティアリーダーからの読み聞かせ具体案を受け、他のボランティアとの調整を行う。補助が必要な場合等、柔軟に対応する。

○ボランティアリーダーの活動内容

- ・読み聞かせの人数配当と人員整理
 - ・クラスへの振り分け
 - ・学校との日程などの具体的打合せ(変更等にも対応)
 - ・読み聞かせ図書の連絡と調整
 - ・読み聞かせ図書の一覧表の作成
 - ・今月読んだ図書の紹介「みみずく便り」の発行(全校配布)
 - ・読み聞かせ後に自由な雰囲気です話し合える反省会
 - ・懇親会企画
- *企画連絡・お便りや一覧表作成・印刷作業は分担したチームで行い、効率よく負担が少なく活動ができるようにしている。
- *ボランティア連絡網を活用し、携帯メールで連絡・報告・調整・変更等を迅速に伝えている。



読み聞かせボランティア



図書ボランティア



鼓笛ボランティア

3 本実践における工夫点

(1) 学校

年間を通して、朝活動の「読み聞かせ」のボランティア計画案を職員会議で提案する。コーディネーターとボランティアリーダーに連絡・調整。読書活動推進教諭と図書事務と連携しながら、環境整備や読書活動の推進を進めている。親子読書や希望保護者に図書カードを配付し、図書室利用を進める機会としている。

(2) コーディネーター

ボランティアリーダーによる主体的な活動を支えている。学校との調整や運営面における相談や報告を受けアドバイスをを行う。ボランティアリーダーやボランティアとの会話の機会を多くもち、安心してボランティアができる雰囲気をつくるようにしている。

(3) ボランティア

季節や行事、学年やクラスの雰囲気を考えながら、図書を選んでいる。また、反省会では、各クラスで読んだ図書について話し合ったり、ボランティア同士でおすすめの図書を紹介し合ったりすることなど、互いの力を向上させている。

4 それぞれの立場から見た本実践の意義・成果・感想等

学校	コーディネーター	ボランティア
学校の教育目標の具体目標である読書推進が充実している。読書活動が地域の人からも支えられていることで、地域ぐるみの読書推進につながる。親子読書にも積極的に取り組み、読書環境が醸成されつつある。	主体的にボランティアリーダーを中心として、活動が進められる組織に発展している。互いに切磋琢磨している姿に、いつも感心し、刺激を受けている。	子ども達が、食い入るように本を見つめ、しっかりと聞いてくれる姿が励みになる。自分で選んだ本が読み聞かせできてやりがいがある。互いに刺激を受け、自分の成長につなげている。

【授業以外の学習支援③】

花苗の鉢上げ作業 中之条町立西中学校

1 実践の概要

校内の環境美化活動の発展として、地域の花いっぱい運動に協力して花の苗の栽培を行っている。現在、町の委託を受け、サルビア（約2万鉢）やマリーゴールド（約5千鉢）の苗を栽培して地域に配布している。

以前は全校生徒だけで行っていた鉢上げ作業であるが、生徒の減少で時間がかかることから、昨年より地域ボランティアに協力してもらうようになった。

<実施期日> 5月19日 8:40～10:00

2 実践の内容

(1) 学校支援ボランティアの活動内容

- ・下沢渡クラブ（老人クラブ）と菅田婦人部の約30名の方々に協力した。
- ・苗床の苗を取って、プラスチックの鉢に植え替える作業を手伝った。



「校長挨拶とボランティア紹介」



「生徒と共に作業」



「作業後の水やり」

(2) コーディネーターの活動内容

- ・学校からボランティアの依頼を受け、地区の区長会長を通して、学校の近隣の老人クラブ（下沢渡クラブ）と菅田地区の婦人部の代表に依頼し、協力を得た。
- ・依頼文を代表を通じて配布した。
- ・当日の作業を手伝いながら、学校やボランティアからの要望や反省事項を確認した。

3 本実践における工夫点

(1) 学校

- ・作業は学級ごとにシートを敷きその上で作業を行い、地域の方々には生徒の間に分かれて入ってもらい、生徒との交流が図られるようにした。
- ・作業手順は地域の方々の知恵を借りて、その方法を取り入れたので、生徒も例年以上に意欲的に作業に取り組み、作業時間の短縮が図られた。
- ・生徒には地域ボランティアへの感謝の気持ちを持たせるよう指導した。
- ・生徒が地域ボランティアと作業することにより、地域全体で環境美化を行っているという意識を持たせる。

(2) コーディネーター

- ・学校周辺のボランティアに世話になることが交通手段の便利さや学校に近いことから一番身近な方法と考え、下沢渡クラブ、菅田婦人部の方々に依頼した。
- ・地域のできるだけ多くの参加者を代表者に依頼した。
- ・依頼文を代表者に手渡して信頼関係を築いた。
- ・地域ボランティアへの保険対応を町教育委員会に依頼した。

(3) ボランティア

- ・できるだけ生徒との交流が図られるように少人数に分かれて生徒の輪の中に入るよう心がけた。また、積極的に生徒に声を掛けるようにも心がけた。
- ・作業終了後、休憩をとりながら意見交換を行うようにした。
- ・地域の都合の付く皆さんに参加を呼びかける努力をした。

4 それぞれの立場から見た、本実践の意義・成果・感想等

学 校	コーディネーター	ボランティア
<ul style="list-style-type: none">・学校の様子や生徒の様子を地域の方に理解していただく場として大変有意義であった。・生徒が地域の方と交流する場面が見られ有益な活動となった。・作業が短時間で行われ、生徒の負担も軽減され、授業（学習）への切り替えもスムーズに行えた。・今後も地域の方の協力をいただきながらこの活動を行っていきたい。	<ul style="list-style-type: none">・生徒、教職員、地域ボランティアと一緒に作業することにより、作業能率の向上が図られたり、作業を通して生徒と地域の方々との会話がはずんだり、仲良く楽しく過ごせたことは素晴らしいことであった。・学校が地域と一体となった学習展開ができたことは大変意義のあることであった。・地域ボランティアの協力により学校の仕事量が軽減され、学習指導等にゆとりが生まれる。・今後も地域ボランティアの継続的な協力が望ましい。	<ul style="list-style-type: none">・継続した活動で、効率よく作業を進めることができた。・生徒と一緒に作業することにより、生徒と話したり、交流を持つことができた。・花作りをすることにより、地域の環境美化に貢献することができた。・先生方と話す機会が与えられたり、学校の様子を知る機会となった。・花作りを通して、地域の仲間とのコミュニケーションがとれ、地域の団結力が高まったり、地域づくりの一助ともなる。

【授業以外の学習支援④】

夏休みわくわく体験活動「牛乳パックでケーキずし作り」

沼田市立沼田東小学校

1 実践の概要

夏休みわくわく体験活動として、『プロフェッショナルを身近に』をテーマに、地域や地元企業の方を中心に講師をしてもらった。その中で「牛乳パックでケーキずし作り」の体験活動は、JA利根沼田の協力で実施した。飲み終わった牛乳パックを使って、簡単に作れておいしいケーキのような形をした押し寿司を作って楽しく食べた。

2 実践の内容

(1) 学校支援ボランティアの活動内容

- 依頼を受けたJAは事前に実習を行い、本番に備えた。
- メールでコーディネータと連絡を取り合い、計画を練った。
- 当日、材料を用意し、指導に当たった。(児童から材料費を徴収)
- 会場となった調理室の準備・片付けをした。

(2) コーディネーターの活動内容

<学社連携推進担当>

- 実施に当たって、参加児童の募集・集計をしたりコーディネーターと連絡を取ったりした。
- 当日、申し込んで来ていない児童宅へ参加確認をしたり、必要に応じて児童の個別支援やグループのサポートをしたりした。

<コーディネーター>

- 事前にJAと連絡を取り、活動に向けて準備をした。
- ボランティアから実施に当たっての連絡がきた内容を学校側に伝えた。
- 参加児童の班分けをしたり、班シールや集金の名簿を作成したりした。
- 当日、児童の受付と集金をし、まとめて担当講師に渡した。
- 活動の様子を写真に撮り、記録を残した。
- 活動後にボランティアの慰労と反省会をし、今後の活動の見通しを話し合った。



<ボランティアと米とぎをする児童>



<カップすしの入れ込み途中>

3 本実践における工夫点

(1) 学校

- ・体験活動が有意義に展開できる場を設定した。
- ・内容を毎年吟味しながら、新しい体験活動を提供してくれなので、児童に定着した活動になってきた。事故防止や安全について留意事項を確認し、内容や方法については、ボランティア団体（JA）に任せた。

(2) コーディネーター

- ・活動内容の報告、日時・準備等の調整や打合わせを行った。

(3) ボランティア

- ・昨年の活動をもとに、今年度の実施内容を考えた。
- ・JAの特性を生かし、お米を用いた献立を考え、児童にも簡単にできるものを提案した。

4 それぞれの立場から見た本実践の意義・成果・感想等

学 校	コーディネーター	ボランティア
<ul style="list-style-type: none">・今回の活動を含め、夏休みわくわく体験活動は、本物の体験をすることにより、キャリア教育の一環として児童の興味関心をさまざまな面から引き出すことができる。・児童にとって食育につながる活動であると同時に、地域の企業や産業を知る上で有効であった。・地域の企業の体験活動を児童は毎年、楽しみにしているので、より多くの児童が参加できるように配慮した。・夏の暑い時期での活動なので、熱中症や食中毒にも気を付けて活動させた。	<ul style="list-style-type: none">・活動が充実するように、安全に過ごせるようにしっかり準備を行った。・異学年交流ができるようにグループ分けを配慮した。・児童にとって食べることが楽しい活動なので、毎年改善をしながら、よりよい体験活動ができるようにしていく。	<ul style="list-style-type: none">・毎年本校の夏休みわくわく体験活動に参加し、児童と過ごす楽しさや喜びを味わうことができた。・今年の活動をしながら「来年は何にしようか。」と考えてしまう。児童からパワーをもらうことが多い。・活動の様子をJAの冊子「夢 i n g」の表紙に使うことができ、児童の笑顔が好評であった。

5 その他の「夏休みわくわく体験活動」

○車の構造を知ろう（県自動車整備振興会沼田利根支部、金子自動車整備工場）



○うどん作り（すみれ会（旧婦人会）等）



○ビーズでストラップ作り（地域の方）



○だんご作り（地域の方）



○世界のお金を知ろう（丸三証券（株）沼田支店）



○カレーを作ろう（沼田ガス（株））



○航空教室「パイロットの話を聞こう」（全日本空輸（株）東京）



【環境整備や地域交流支援①】

学校と地域が一体となった「あいさつ運動」 前橋市立南橋中学校

1 実践の概要

本校教育目標「豊かな心をもち、たくましく生きる生徒の育成」を基盤に、また、いじめや不登校を防止する心の教育の一環として「あいさつ」の大切さに着目し、平成20年から生徒会を中心に、「あいさつ運動」を開始した。そして、この運動が校内でしっかりと定着し、さらに地域にもその輪が広がることを期待して、開始当初から地域ボランティアの協力を得て現在に至っている。



地域ボランティアの協力依頼に関しては、平成20年9月に「あいさつボランティア募集」のチラシを作成し、各自治会長を通して地域に回覧をお願いした。これにより、地域ボランティア16名の協力を得ることができ、11月から校門2カ所で「あいさつ運動」を開始した。

平成21年度には、運動の定着と拡大をさらに深めるために、保護者にも「あいさつボランティア」募集を呼びかけた。その結果、約570世帯のうち160人の応募があり、5月から保護者も参加しての活動が実践された。

本年度は、生徒会役員のほか、学級委員やJRC委員の生徒たちの参加も見られるようになった。さらに、剣道部のように朝練習の合間をぬって参加する生徒も現れ、地域ボランティア・保護者が生徒と一体となってこの活動を継続させている。

2 実践の内容

(1) 学校支援ボランティアの活動内容

- ①実施時間 月曜日から金曜日の授業日の毎朝、生徒の登校時（8：00～8：30）
- ②実施内容 正門と西門（2箇所）において、生徒へのあいさつと声掛けを行う。
- ③実施方法 地域ボランティアは、2～4名の組に分かれ、週1回の当番にあたる。
保護者は応募してきた要望に沿って、週1回、月1回、学期1回と、学期ごとの当番表に基づき活動に参加する。

(2) コーディネーターの活動内容

- ①活動開始に当たって、「あいさつ運動」の趣旨と目的さらに効用や方法について、管理職を通じて教職員への周知徹底を図る。地域ボランティアの募集に際しては、チラシの作成とその回覧のほか、南橋地区民生委員・児童委員協議会に出席して直接協力依頼を行った。
- ②保護者へは、ボランティアへの理解と協力を、アンケート並びにPTA集会等の機会を利用して直接に呼びかけを行い、学期ごとの当番表を作成して依頼した。
- ③初年度末には地域ボランティアに対し、活動の様子を写した写真と感謝状を贈呈した。
- ④2年目の末には、給食の試食会を実施し、生徒と地域ボランティアとの交流を図るとともに情報交換の場とした。

3 本実践における工夫点

(1) 学校

- ・職員会議で「あいさつ運動」に関する話し合いを行い、職員間での共通理解を図った。
- ・各学年・学級、各部活動であいさつに対する関心と実践を喚起する指導を行った。

- ・教職員が率先してあいさつを交わし、「背中の教育」も併せて行うよう努めた。
- ・出勤時には、必ずボランティアの方々に感謝の言葉を述べるなど、きめ細かい交流を図った。

(2) コーディネーター

- ・コーディネーター2人が必ず毎日活動に参加し、生徒に対するあいさつや声掛けを行うと同時に、協力参加の名簿や首掛け用のネームプレートを用意するなどの世話役を行った。
- ・特別支援学級の生徒が自作の陶芸品を地域ボランティアの方々に贈った際、そのお礼の手紙の仲介役をするなど、学校と地域の交流の手助けをした。

(3) ボランティア

- ・朝のあいさつと声掛けと同時に、生徒たちに温かな眼差しを注ぎ、学校外での生徒の様子や評判を機会あるごとに学校に伝えた。
- ・学校行事の参観など率先して行うなど、学校と地域の連携がスムーズになるよう配慮した。

4 それぞれの立場から見た、本事業実践の意義・成果・感想等

学 校	コーディネーター	地域ボランティア
<p><生徒の感想文></p> <p>昨年度から本部役員として活動に参加してきました。その中で、活動が定着してきた2、3年生は、多くの方が爽やかにあいさつをしてくれます。1年生で少々元気が見られない部分は今後の課題となるでしょう。</p> <p>昨今、人の繋がりが希薄といわれる中で、地域の方とも交流が図れるこのあいさつ運動、朝の校門でのひととき、笑顔で交わすあいさつは、自分の中でも一日の活力になっていると思います。これからも、更にあいさつの輪を広げたいと考えてえています。</p>	<p>・いじめや不登校は、学校生活で見られる問題行動だが、人間関係の希薄さという現代社会の病根を映す鏡のように思える。このような現状を踏まえ、人間関係の潤滑油ともいえる「あいさつ」は、近い将来社会人として自立し、たくさんの人たちと接することの多くなる中学生にとって、確実に身に付けさせたい大切な基本的な生活習慣であるといえよう。そこで、この運動を地域住民の協力を得て実践することで、学校と地域との連携を深めると共に、生徒たちの自立と共生に寄与したい。</p>	<p><Kさんの寄稿文></p> <p>「おはようございます」元気なあいさつが南橋中正門からこだまします。8時10分前から、先生、PTA、生徒代表とボランティアがそろって、登校する生徒さんと目を合わせながらお互いに声をかけます。</p> <p>毎週金曜日、寒い日もあれば雨の日も、また穏やかな日もあります。長く続けていると互いに慣れてきて、同じ時間帯に登校する生徒さん一人ひとりの個性がハッキリ見られます。たった30分、それも週一回のボランティア。自分の子どもでもないのにとても身近に感じられ、四季の風を受けながら、自分の子育てでは味わえない大きな幸せをいただいています。</p> <p>授業前の元気なあいさつ、たったひと声の「おはようございます」が、毎日の積み重ねによって豊かな人生を下さると信じ、ボランティアを続けさせていただきます。</p>
<p>ボランティアとコーディネーター</p> <p><教師からの感想></p> <p>人と人とのより良い関係を築くあいさつの定着により、生徒の学校生活にメリハリが感じられるようになってきた。具体的には、遅刻の減少や集会活動での集中と切り替えなど、数年前とは見違えるように変わってきている。確実に、学校が目指す「生きる力」の育成にもつながっていると思われる。</p>	<p>・2年前には、「おはようございます」「こんにちは」等、校内で声をかけても、言葉を返してくる生徒は少なかった。しかし、昨年度からは、声に出して返事をする生徒が確実に増えてきた。また、地域ボランティアの方からの情報では、校外でもあいさつができる生徒が確実に増えているようだ。今後は、さらに心をこめたあいさつのお大切さを理解し、実践していけるような生徒の育成に関わっていききたい。</p>	 <p>広がりをもせる「あいさつ運動」</p>



ボランティアとコーディネーター



広がりをもせる「あいさつ運動」

【環境整備や地域交流支援②】

「学校・地域ふれあい花壇」の造成と花づくり活動 前橋市立鎌倉中学校

1 実践の概要

本校では、生徒、保護者、地域社会から信頼される「開かれたさわやかな学校づくり」を目指している。学校の垣根をできるだけ低くして相互交流を進めることが地域力を生かす上で大切であり、それを通して地域の学校愛が醸成され、ひいては生徒の心情形成に資するように思われる。

平成20年9月、コーディネーター着任の際、学校から①朝登校の生徒が挨拶を交わす校門にしたがい、②体育館北の空き地に花壇を作り共に花作りをしたい、という2つの提案があった。この2つの具現化が、以降コーディネーターの主な取り組みとして現在に至っている。

早速、文書で各町に「ボランティア募集」の回覧等を依頼したところ、花づくりでは14人の支援者が得られた。内4人の男性を主力として12月から花壇づくりに取り組んだ。

そこはかつて学校建設や道路工事が行われた時、資材置き場や通路とされた所だったので、展圧された地面は硬く、凍結と相まって掘り起こすのはとてもハードな作業だった。そして、2月には約100㎡の「学校・地域ふれあい花壇」として完成した。

平成21年3月4日、学校・地域あがての開園式典が催された。



花壇造成作業



開園式典

花壇造成に尽力いただいた4人に感謝状を贈り、学校長、生徒会長が関口さん（花の提供者）の指導のもと名花オステオスペルマムを植えた。続いて全員が一鉢ずつ植えると花壇はたちまち春色に染まった。花は夏まで豊かに咲き続けた。その後は7月の生徒（環境委員）と花ボランティアの共同作業をベースにして楽しい花作りに取り組んでいる。昨春は大量のチューリップを中心に百花繚乱。平成22年は3基のスカイツリー（高さ4m）にヘブンリーブルーが秋まで咲き誇り、道行く人をも大いに楽しませた。



オステオス ペルマム

2 実践の内容

(1) 学校支援ボランティアの活動内容

- ①花壇造成活動（男性4人を中心にボラ9人）12月～3月で設計、耕運整地、土入れ、ブロック仕切り等
- ②花づくり活動（時季に応じたボラ）7月下旬に共同作業（女性ボラ10人）水曜日に集中作業（環境委員の生徒）当番制で朝の灌水、除草

(2) コーディネーターの活動内容

- | | | | | |
|------------|-------------------------|----------|------------|-------|
| ①ボランティアの募集 | ・学区内各町へ回覧で周知、各種団体への呼びかけ | ・個別の働きかけ | | |
| ②事業推進の準備 | ・連絡調整（学校、ボランティア、業者等） | ・物品調達 | ・作業調整 | |
| ③事業の実施 | ・諸打ち合わせ | ・情報交換会 | ・給食試食会&懇談会 | ・感謝の会 |

3 本実践における工夫点

(1) 学校

- ・職員会議や朝の打合せ等で職員の共通理解を図りながら、本活動をすすめるよう心がけた。
- ・生徒会本部、専門委員会（環境委員会）の担当教諭及び生徒が積極的に関わるようにした。
- ・本活動の様子について、学校便り等で積極的に家庭や地域に情報発信を行った。

(2) コーディネーター

- ・生徒とボランティアの触れ合いの機会として、7月に共同作業日を設定している。
- ・ボランティアは名標を所持していつでも花壇に出入りできるようにしている。
- ・アイデア等を生かすため話し合いの場を持ち、楽しい花づくりになるように努めている。

(3) ボランティア

- ・花壇に良い花や手入れの方法等情報収集に努めている。
- ・登校の際は、生徒に進んであいさつや呼びかけをしている。
- ・学校理解と支援の根が地域に深まるように努めている。



共同作業日(2010.7.23) 遠景にスカイツリー

4 それぞれの立場から見た、本事業実践の意義・成果・感想等

学 校	コーディネーター	地域ボランティア
<p>＜教師の感想＞</p> <p>この「学校・地域ふれあい花壇」はその名の通り、学校と地域を結びつけるとてもあたたかく、かけがえのないものとなっています。生徒の心の教育においても、大きな力となっていると思います。これからも、ボランティアの方々と共に協力し、本活動を継続していきたいと思っています。</p> <p>＜生徒の感想</p> <p>ー花ボランティアに参加して></p> <p>私は夏休みに花ボランティアに参加しました。初めてのことで何をしても良いか分かりませんでした。でも、地域の方が優しく教えてくれて花壇にきれいに花を植えることができました。草むしりや花植えは暑くて大変だったけど、地域の方と話しながら行ったので楽しかったです。地域の方が作ってくれたおにぎりが最高においしかったです。</p>  <p>共同作業を終えて</p>	 <p>花いっぱい花壇</p> <p>時には放置自転車の置き場になっていた体育館北側の空き地を「花いっぱい花壇を作り地域の人々との交流の場にしたい」という思いで始まった「学校・地域ふれあい花壇」作りである。</p> <p>花壇作りにあたっては地域の方が労を惜しまず作業をし、大きな花壇を作り上げてくれた。</p> <p>花ボランティアさんは自主的に花殻摘みや雑草ぬきをしに、学校に気軽に来てくれるようになり、地域の方々の学校への温かな支援を感じる。</p> <p>「環境が人を育てる」という言葉があるが、美しく咲く草花は生徒達的心情を養い、人々の気持ちを豊かにしてくれることと思う。</p> <p>今後も学校と地域とが連携を図りながら、良い環境の元、みんなで子ども達を育てていくことが大切だと考える。</p>	<p>＜花ボランティアさんの声＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・花壇造成は寒い中での作業であったが、あの荒地がきれいな花壇になり、生徒や地域の人々の目をなごませていることはとても嬉しい。 ・花づくりを通してボランティアの方々と一緒にいろいろな家の庭を見たり、綺麗なガーデンの見学に行ったりと、花づくりの輪が拡がり楽しくボランティアを行っている。また、花苗植えの作業や、中学生との共同作業等で学校との距離がとても近く感じられるようになった。  <p>スカイツリーと花ボランティア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感謝の会に招待され生徒がボランティアひとり一人に手紙を書いた。その中にはふれあい花壇が1年を通していつも綺麗に花が咲いている事へのお礼の言葉が書かれていた。花の美しさにふれ、優しい心が培われていくことを願っている。

【環境整備や地域交流支援③】

児童とふれあう「みどりボランティア」 高崎市立吉井西小学校

1 実践の概要

地域の方々が気軽に学校の環境整備や安心安全な学校づくり、地域づくりに参加することにより、地域に開かれた学校づくりや地域間交流が深まる。環境ボランティアの昨年の課題の一つが、環境ボランティアの高齢化と人数減少により、活動が縮小傾向にあることであった。学校とコーディネーターが連携し、児童と触れ合う環境整備活動を企画することで、地域の人材を集める試みを行ったところ、今年度は新たなボランティアが加わり、活動が活性化してきている。

2 実践の内容

(1) 学校ボランティアの活動内容

ボランティア名	内 容	時 間	登録人数
<u>みどり</u> 〈児童と協力して〉	学校敷地内の除草、樹木の剪定、害虫駆除、花壇の整備、校内備品の修理等 プール除草作業・プール清掃・芋掘り手伝い・稲刈り手伝い・枯葉掃除腐葉土づくり等	通年/毎月 第2木曜日	7人
運動会準備	運動会前日、テントはりやくい打ちなど児童とともに行う。(前年から企画。コーディネーターが手配とボランティア配分・学校調整・今年度猛暑のためテント4基増加)	運動会前日	今年度は 32人
引率	遠足・体験学習・校外学習・等	随時	30人
新入児お帰り引率	4月当初の1週間程度、学校職員とともに新入児の下校引率。新入児以外の保護者。	4月初め一週間程度	随時
防犯パトロール	通学路の安全確保、児童の登下校時パトロール等。(今年度登録者の見直し済み・往復はがき。新規の方には帽子配布)	随時	129人

(2) コーディネーターの活動内容

連携推進委員会により、環境ボランティア高齢化、減少化等の問題点の提起。学校からの提案を受け、ボランティアの改善の企画。ボランティアの募集・登録、名簿の作成・ボランティアリーダーやボランティア、職員との調整と打合せ・ボランティアとの情報交換・連携職員との調整・活動内容の打ち合わせ・当日事前ボランティアとの打ち合わせ・活動の具体的説明・活動後のボランティアの感想等の聞き取り・活動の記録、まとめデータ作成(写真・テキスト)



みどりボランティア



みどりボランティア



運動会準備ボランティア



引率ボランティア



新入児お帰り引率ボランティア

3 本実践における工夫点

(1) 学校

減少傾向にあるボランティアについて、解決策を検討。コーディネーターに提案。コーディネーターからの企画実現の見直しを受け、担当や担任と校内調整。担当より、朝活動の「みどりの時間」のボランティア計画案を職員会議提案。各学年へのボランティア配置計画と今日のボランティア紹介コーナー設定。児童との触れあう場面を意識して設けるとともに、「チャ米祭」招待や児童からの感謝状等、感謝の気持ちをもたせる工夫を行った。

(2) コーディネーター

みどりボランティアの新たな募集。保護者集会での内容説明とよびかけ。地域や現ボランティアからの紹介などで人材集めを行う。学校への紹介、校長承諾を受け、登録。ボランティアとの日程調整と初めてのボランティアへの説明。当日も一緒に活動している。

(3) ボランティア

年間計画を受け、当日の日程を調整し、参加できるようにした。児童への言葉がけを進んで行い、苗植えなどで児童一人一人に丁寧に声をかけた。児童との活動後も、側溝整備やプールの周り、草むしり、落ち葉掃き等1時間程度、ボランティアを行えるようにした。

4 それぞれの立場から見た本実践の意義・成果・感想等

学校	コーディネーター	ボランティア
一人ひとりの児童を落ち着いてよく見ながら、作業が進められ安心であった。環境整備をしていただくことで、児童が落ち着いて学習に取り組める。	減少傾向であったボランティアに新たな人材が増えてよかった。今後は、児童の祖父母に声をかけてみるなど工夫したい。	子ども達と声を交わしながら作業をするのが楽しい。町で会って「みどりの人だ！こんにちは！」とってくれると本当に嬉しかった。

【環境整備や地域交流支援④】

「掲示板の設置」作業 中之条町立伊参小学校

1 実践の概要

学校支援地域本部事業の広報「学校お助け隊だより」を町内に全戸配布したところ、これを見た町の職工組合からボランティア希望が寄せられた。

学校では、玄関に学校の活動状況を知らせる掲示板の設置を考えていたが、予算の面で計画実現が直ぐには困難な状況であった。

そこで、コーディネーターが学校と職工組合を仲介して、玄関の柱に掲示板を設置することができた。

2 実践の内容

(1) 学校支援ボランティアの活動内容

事前に打ち合わせを行い、6月9日に校区内の3名の組合員の協力で、円形の柱に枠をつくり4面の掲示板が設置できた。材料費を学校で負担しただけで立派な掲示板ができあがった。

(2) コーディネーターの活動内容

中之条町職工組合よりのボランティア希望を受けて、各学校への軽作業の希望を募った。伊参小からの希望があり、職工組合へ希望内容を仲介した。



「枠作り」



「板の設置」



「完成後の掲示物の展示」

3 本実践における工夫点

(1) 学校

- ・玄関の柱の周りに4面の板を設置し、材料費は予算の範囲で支払いをする旨を伝え、協力をお願いした。
- ・完成後、児童には設置頂いた方々への感謝の気持ちを持ちながら活用するよう指導した。

(2) コーディネーター

- ・職工組合からのボランティア依頼を町内の学校へ連絡し、要望を受ける体制をつくった。
- ・伊参小からの要望を職工組合に連絡し、下見を兼ねて学校と打ち合わせを行うことを提案して設置計画の立案を促した。

(3) ボランティア

- ・永く活用できるものなので、できるだけしっかりした物をつくりたいと考え、枠や形状、材料に工夫をした。
- ・地域貢献という意図を踏まえ、学校区内の事業者中心に選定して当日の作業を3名で実施した。
- ・見た目を良くする工夫をするため、腰板を持ち寄るなどの材料の奉仕も行った。

4 それぞれの立場から見た、本実践の意義・成果・感想等

学 校	コーディネーター	ボランティア
<ul style="list-style-type: none"> ・ 安価に掲示板を設置したいという構想を素早く実現することができ、大変感謝している。 ・ 児童の学習や学校行事などの様子を掲示して全校児童や保護者、来校者に見てもらえることができ好評である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広報「学校お助け隊だより」の配布により職工組合からのボランティア申し出があり、学校に紹介して実現した学校支援活動である。 ・ 本事業へ町民の関心が向けられた事例であり、広報活動の意義の重要性も確認できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域貢献活動の一環として、学校へのつながりをつくりたいと考え、本事業への協力を申し出た。 ・ 地元の学校に設置するからにはよい物をつくりたいという思いで設計し、見た目も考えて腰板を付けるなどの工夫をした。



【環境整備や地域交流支援⑤】

校庭の固定施設「補修及びペンキ塗り」

沼田市立沼田東小学校

1 実践の概要

校庭各所に点在する遊具の整備及び点検を含め、補修やペンキ塗りを行い、安全確保・環境整備を行った。(平行棒・雲梯・鉄棒・ブランコ・ゴールポスト・ジャングルジム・登り棒・朝礼台等)

2 実践の内容

(1) 学校支援ボランティアの活動内容

- 参加したボランティアの中には、グラウンドゴルフをやっているメンバーが感謝の気持ちを含めてペンキ塗りのボランティアに参加した。
- ペンキ塗りのリーダーが天候を考慮し、実施日を決めた。
- 学校で用意した、ペンキを使って塗った。

(2) コーディネーターの活動内容

<学社連携推進担当>

- 安全点検後、安全主任から補修・ペンキ塗りの要請があり、コーディネーターにその旨を伝えた。
- 用務員さんに計画内容を伝え、材料や用具の準備について応援をしてもらった。
- 当日、お茶を用意した。

<コーディネーター>

- 業者による固定施設の安全点検後、補修依頼を受け、ボランティアを募った。
- ペンキ塗りメンバーと連絡を取り合い、実施日の調整を行った。
- 学校側に決定した活動日の報告をしたり、打合せを行ったりした。
- 活動の様子を写真に撮り、記録を残した。
- 当日、ボランティアルームで接待をした。



<雲梯のペンキ塗り>



<鉄棒のサビ落とし>

3 本実践における工夫点

(1) 学校

- ・業者による遊具の安全点検実施後、学校で整備補修できるものについてはボランティアをお願いし、サビ落としとペンキ塗りを中心に支援してもらった。
 - ・整備や補修にかかる必要な用具、資材は学校で用意した。
- ※普段校庭を使用している「グラウンドゴルフ愛好会」の方が中心となって実施

(2) コーディネーター

- ・近所で世間話をしているとき「いつも校庭を利用させてもらっているから、学校に対して何かできないだろうか」と話題になった。学校からの「ペンキ塗りをお願いしたい」という話と相まって、学校支援活動が始まった。

(3) ボランティア

- ・校庭を使わせてもらっているので、お礼の気持ちを込めてペンキ塗りをした。

4 それぞれの立場から見た本実践の意義・成果・感想等

学 校	コーディネーター	ボランティア
<ul style="list-style-type: none">・地域の学校に対する思いは、想像以上に強いものを感じた。また、地域の方が、活動できる場が学校にはまだまだあることを再確認した。・環境整備をしてもらったので、児童の安全確保が図れた。・今回のボランティアを含め、学校に地域の方が入ってくることは、防犯の意味においても意義は大きい。・校庭の遊具がきれいになり学校が明るくなった。	<ul style="list-style-type: none">・近所の人声「学校のために何かしたい」ということを学校に伝えたことにより、学校からも地域の方からも喜ばれた。・学校をより身近に感じてもらい、ペンキ塗りの依頼も気軽にメンバーが集まってくれた。	<ul style="list-style-type: none">・自分たちが塗った遊具で児童が歓声をあげて遊ぶ様子を見ることは「やって良かった」と大きな喜びを味わうことができた。・地域の仲間と活動することにより、横のつながりがさらに深まった。・作業していると休み時間に児童が近寄ってきて話しかけてくることも楽しみの一つであった。

5 その他の環境整備に関する支援

○給食のエプロン補修



○図書の補修



○サルビアの苗植え・種取り



○グリーンカーテンづくり



○固定施設の補修



4 学校支援センター運営推進状況調査結果

平成22年6月実施

(調査対象：市町村立小学校・中学校・特別支援学校 平成22年度：計513校)

1 学校支援センター設置状況

	スペースの確保	割合	機能のみ	割合	設置なし	割合
H19.5.1	223校	42.9%	296校	56.9%	1校	0.2%
H20.5.1	201校	39.0%	314校	61.0%	0校	0.0%
H21.5.1	210校	40.9%	303校	59.1%	0校	0.0%
H22.5.1	203校	39.6%	310校	60.4%	0校	0.0%

2 コーディネーターの方が学校に位置付いている。

	位置付いている	割合
平成18年度	121校	23.2%
平成19年度	100校	19.2%
平成20年度	152校	29.7%
平成21年度	184校	35.9%

3 コーディネーターの方が学校に位置付いていただけた理由（184校の回答・複数回答可）

理由	P T A への働きかけ	地域組織への働きかけ	保護者への広報	地域への広報
平成20年度	72校	52校	34校	18校
平成21年度	107校	65校	54校	26校

4 ボランティアを取り入れて行った活動

<主に授業における活動>

	書写	楽器演奏	ミシン操作・調理実習	総合的な学習の時間	理科実験	キャリア教育	食育	外国語活動	職場体験	宿泊体験活動
小学校	95校	89校	186校	273校	17校	27校	60校	38校	3校	70校
中学校	17校	33校	33校	73校	4校	37校	16校	2校	53校	6校

<主に授業以外における活動>

	あいさつ運動	安全パトロール	図書館整備・読み聞かせ	放課後補充指導	クラブ・部活指導	環境整備	学校行事(遠足・旅行等)
小学校	68校	266校	302校	60校	18校	182校	154校
中学校	48校	109校	27校	9校	104校	120校	62校

5 活動にかかわったボランティアの方の人数

	主に授業での活動		主に授業以外での活動		総数	
	実質人数	のべ人数	実質人数	のべ人数	実質人数	のべ人数
小学校	10,842人	26,754人	44,355人	849,926人	55,197人	876,680人
中学校	2,115人	5,306人	14,112人	34,101人	16,227人	39,407人

	あいさつ運動		安全パトロール		図書館整備		放課後補充指導		部活指導	
	実質人数	のべ人数	実質人数	のべ人数	実質人数	のべ人数	実質人数	のべ人数	実質人数	のべ人数
小学校	3,672人	31,569人	34,790人	748,835人	5,377人	45,181人	774人	11,586人	109人	967人
中学校	4,913人	8,710人	6,882人	12,554人	186人	2,067人	14人	108人	380人	7,577人

6 成果と課題（複数回答可）

<児童生徒から見た成果>

	きめ細かな個別指導	専門的な知識や技術の向上	児童生徒の社会性が育つ
小学校	184校	223校	253校
中学校	45校	121校	92校
合計	229校	344校	345校
割合	45%	67%	68%

<学校から見た成果>

	教師の負担軽減	安全管理の一助	環境整備	保護者の学校への理解が深まる
小学校	180校	265校	183校	256校
中学校	89校	82校	95校	108校
合計	269校	347校	278校	364校
割合	53%	68%	54%	71%

<保護者・地域の方から見た成果>

	学校に対して協力的になった	保護者や地域の方のつながりが深まる	自分自身が生きがいを感じられる
小学校	273校	208校	172校
中学校	127校	78校	42校
合計	400校	286校	214校
割合	78%	56%	42%

<課題>

	打ち合わせ時間の確保	日程調整の難しさ	意識のずれ	守秘義務	学校内での役割分担	ボランティアリーダー等の育成	必要なボランティアの方々の確保
小学校	211校	139校	59校	24校	36校	184校	155校
中学校	78校	77校	14校	16校	28校	91校	94校
合計	289校	216校	73校	40校	64校	275校	249校
割合	57%	42%	14%	8%	13%	54%	49%

7 更なる充実への取組

	話合いの場	役割分担	打合せ	リサーチ	資料提供	お礼の機会	経費予算化
小学校	111校	41校	64校	43校	97校	185校	57校
中学校	76校	28校	29校	19校	38校	18校	19校
合計	187校	69校	93校	62校	135校	203校	76校
割合	37%	14%	18%	12%	26%	40%	15%

5 学校支援センターの更なる充実に向けて

以下のような点から、自校の学校支援センターの取組を見直しましょう。

□地域の教育力活用の視点から、学校の各種指導計画を見直しましょう。

地域の方々に支援していただくことで、教育活動の一層の充実が期待できます。

地域の教育力活用の視点から各教科の年間指導計画等を見直し、計画的に学校支援ボランティアの方に教育活動に参画してもらいましょう。

また、地域の方々と連携して取り組む授業等を校内研修と関連づけて実施するなど、職員全体で学校支援センターについての共通理解を図り、更なる教育活動の充実に努めましょう。

□学校と地域を効果的・継続的につなぐ役割として、コーディネーターやボランティアリーダーを位置付けましょう。

地域のことをよく知る方にコーディネーターやボランティアリーダーとして協力していただきましょう。地域の方にお問い合わせすることで、学校の要望と地域の豊富な人材、各種企業や施設等を効果的につなぐことができます。

また、年度をまたいで管理職や担当者が変わったとしても、学校支援センターの継続的な運営と機能の充実につながります。

□学校支援センターの活動拠点となるスペース(空き教室等の居場所)を確保しましょう。

コーディネーターやボランティアに参加していただいている方々の居場所(空き教室等)があると、コーディネーターとボランティア、また、ボランティア同士の交流促進が期待できます。

その結果、地域の方々が学校に協力しやすい体制が整えられ、ボランティアの輪が広がることで、学校支援センター機能の一層の充実につながります。

□学校支援ボランティア活動が、ボランティアの方々にとってやりがいや充実感につながる活動にしましょう。

地域の方々に継続的に学校支援ボランティア活動に参画していただくためには、支援活動や子どもたちとの交流において、楽しさややりがいを十分感じていただくことが大切です。

そのためには、ボランティアの方々の知識や技能を子どもたちへ還元していくことで、自己表現や自己実現につながったり、新たな学習課題に出会ったりするといった、生涯学習の充実につなげていくことが必要です。

□学校支援センターの取り組みについて積極的に周知しましょう。

学校支援ボランティア活動への積極的な参加やきっかけづくりのために、地域の方々に学校支援センターの情報を届けましょう。

学校だよりやホームページ、PTA行事等保護者の方々が集う機会、市町村の広報誌、回覧板等を活用するなど、幅広い広報（周知）につながる工夫をしましょう。

□各種フォーラムや研修会等に積極的に参加しましょう。

学校支援センターの取り組みが一層充実するよう、学校の管理職をはじめ職員は、群馬県教育委員会主催の「地域と学校のパートナーシップ推進フォーラム」や「学校支援センターコーディネーター等研修」、群馬県生涯学習センター主催の「学校支援ボランティア応援セミナー」等各種研修会へ積極的に参加しましょう。

さらに、コーディネーターやボランティアの方々にも参加を呼びかけ、地域と学校の連携と協力を深めながら、互いが気持ちよく取り組める学校支援センターの運営につなげましょう。

文部科学省 学校支援地域本部事業
地域の力を学校に！～学校支援センターの充実に向けて～
平成23年3月発行

編集・発行 群馬県教育委員会義務教育課・生涯学習課
〒371-8570 群馬県前橋市大手町1-1-1